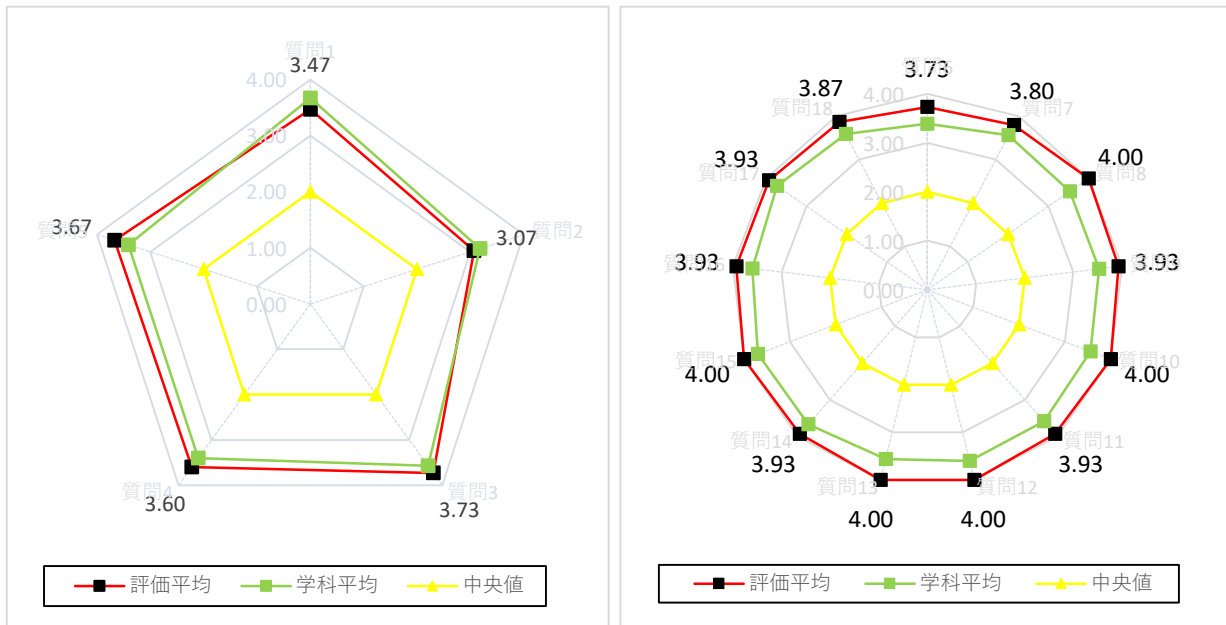


学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		あすなろう I 基礎 (初 年次教育含)	20名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

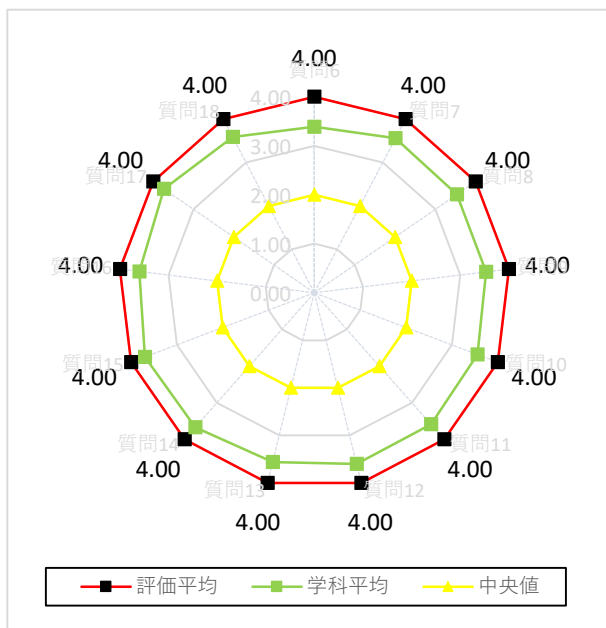
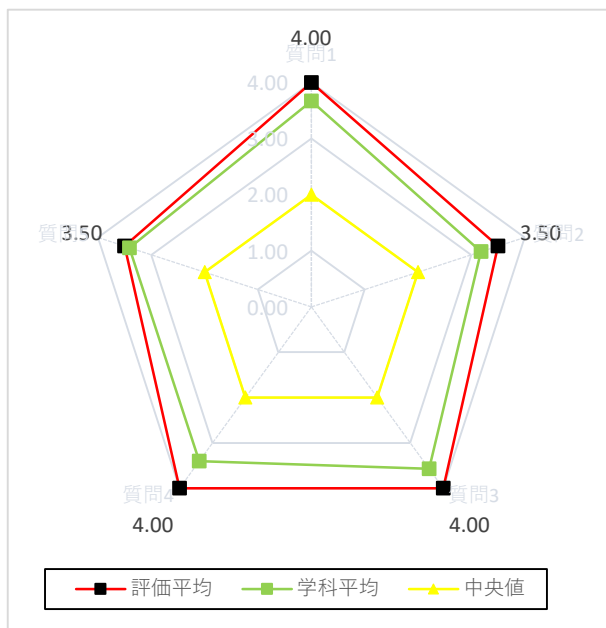
チームワークがよく、学生たちの中で学びを深めてくれていた結果だと考える。シラバスの活用については、今後気を付けなければならないが、質問項目前部にわたって満足されていることが理解できる。

### (3) 次年度に向けての取り組み

結果を受けて、来年度、あすなろう I を担当するときは、心がけていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		ウェルネス・スポーツ	16名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

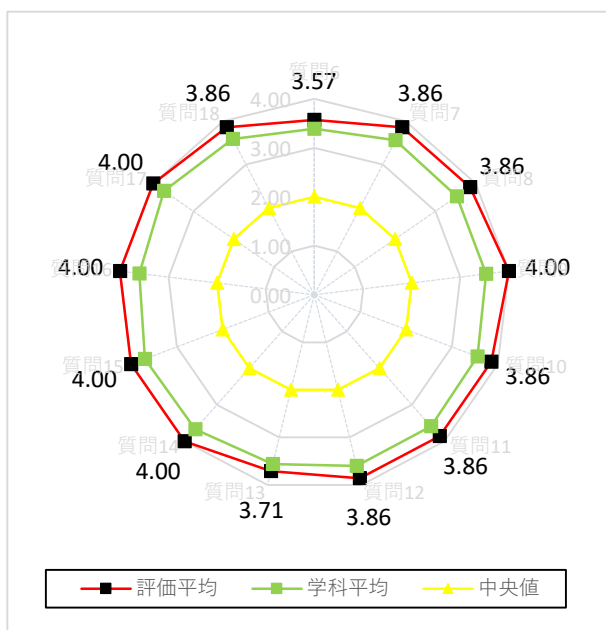
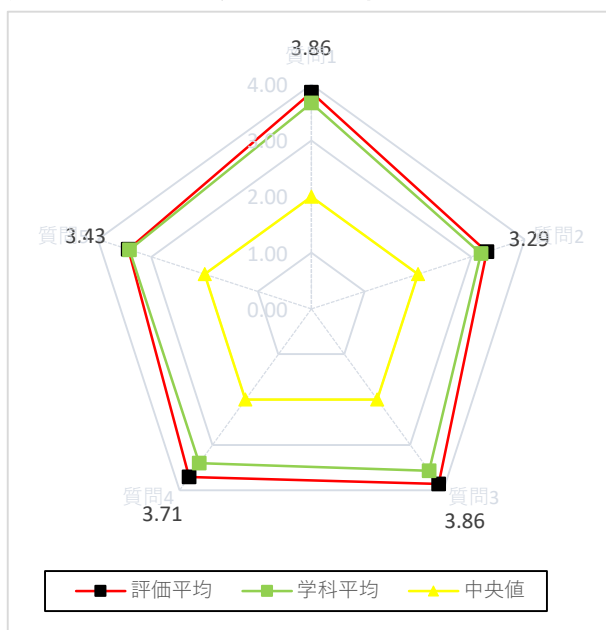
自主的・主体的に運動、スポーツに取り組めるように、受講者の意見を重視し実施内容を柔軟に変更したり、組み合わせながら実施した。回答者が少なく、積極的に取り組んだ受講者の意見といえるが、ほぼすべての項目で、高い評価を得たと判断できる。今後は、自己評価も含めてまずアンケート回答数が増えるように、講義時間内での回答や受講者個々への入力促進を進めていきたい。

### (3) 次年度に向けての取り組み

今年度初めての講義だったので、次年度も内容的には同じ方法によって実施する予定である。実施担当曜日が変わるため受講者の特徴によって、必要があれば変更も含め、受講者の運動、スポーツ種目のニーズにこたえられるように方法を考えていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		データサイエンス演習	10名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

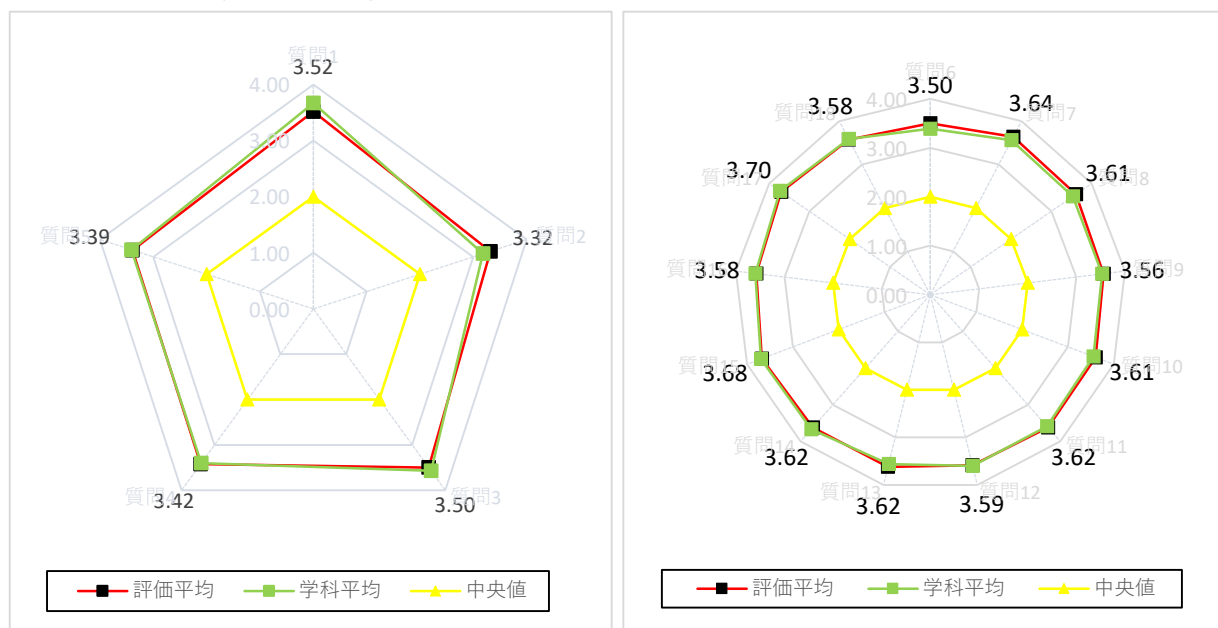
本科目は今年度からの新規の授業であり、教員4名のでオムニバス方式のものであつた。Excel・Word・PowerPoint等についての学びを深めている。学生自身の学びの取り組みが出来ていて、各項目の平均値以上のものが出ていると考えられる。

### (3) 次年度に向けての取り組み

来年度担当することがあれば、学生への一人一人の進捗に合わせたフォローと、シラバスの詳細を少し整理し学生により理解できるようにする必要があると考えられる。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		健康福祉概論	96名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

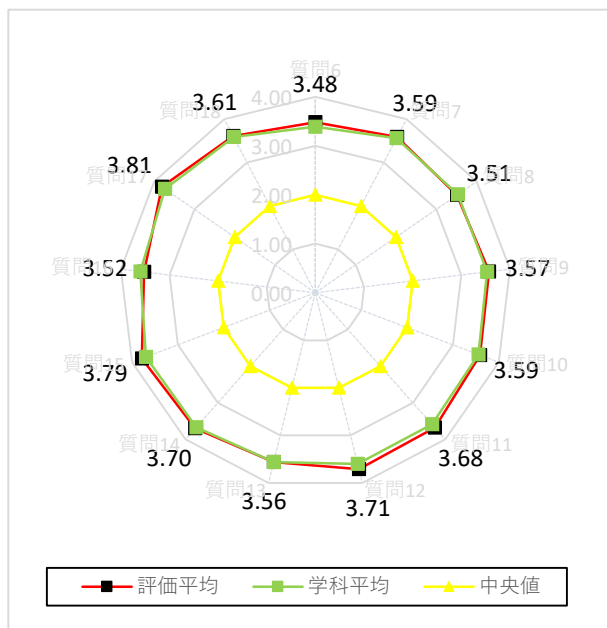
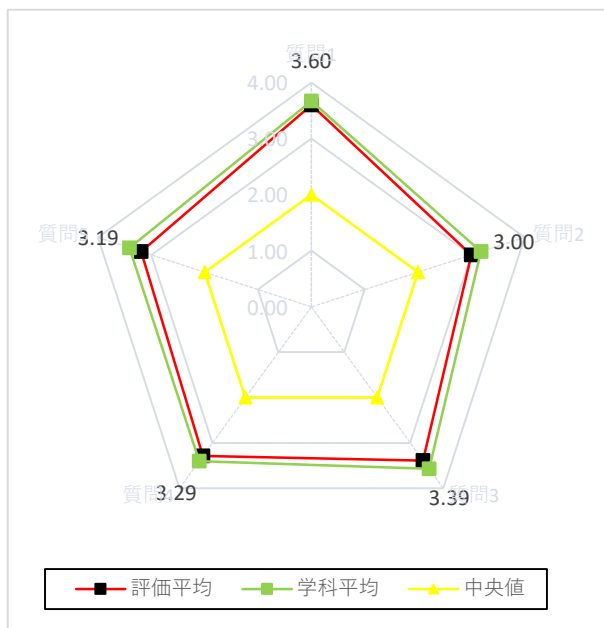
本科目はオムニバスで講義が実施された。学生自身および教員に関する評価項目のどちらも、概ね学科平均と同程度の評価を得ることができた。自由記述では、「それぞれの先生で授業のやり方がだいぶ違ったので少し慣れるのに苦労したこともあったが、とても分かりやすい授業だったと思います」とする感想がみられ、担当教員の専門性である①社会学、②心理学、③スポーツ健康学、④社会福祉学という多様な隣接領域から構成される本科目の特徴が示され、学生に理解が及んだこととを感じる。次年度以降も同様にオムニバス形式で構成されるため、授業への各教員の熱心さと理解を促す授業実施とともに、課題である資料の活用や公平な対応を意識した授業構成に改めていきたい。学生から貴重な意見を得たことから次年度の授業改善に繋げるよう取り組みたい。

### (3) 次年度に向けての取り組み

本科目は、①社会学、②心理学、③スポーツ健康学、④社会福祉学という4名の担当教員が各自の分野を担当し、オムニバス形式により授業を展開している。教員に対しては概ね一定の評価を得たことから、次年度以降も継続して意識していきたい。また、上記の①～④の広範囲な領域から構成される講義のため、学生の自由記述からも「たくさんの先生からのオンライン授業で分かりやすかったです」との感想を得ており、本年度以上の講義展開が実施できるよう各教員との連携をより密にし、社会福祉を取り巻く上記①～④の分野において各教員と連携を取りながら進めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部 子ども学部	社会福祉 スポーツ健康福祉 心理カウンセリング		人体の構造と機能及び疾病 I	113名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

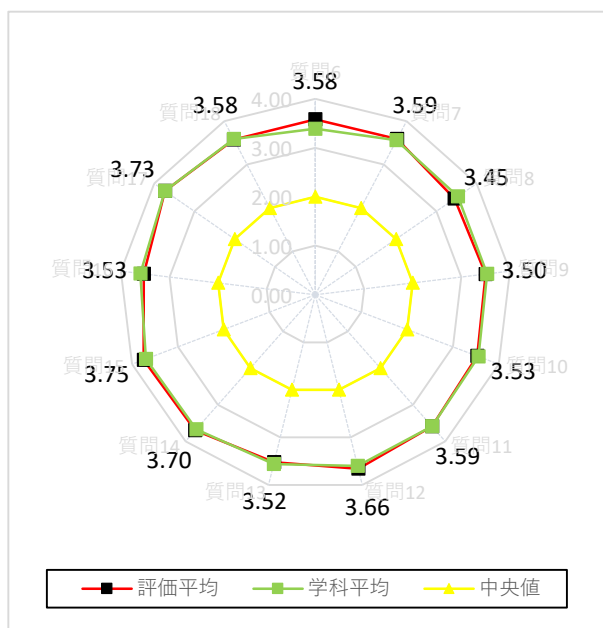
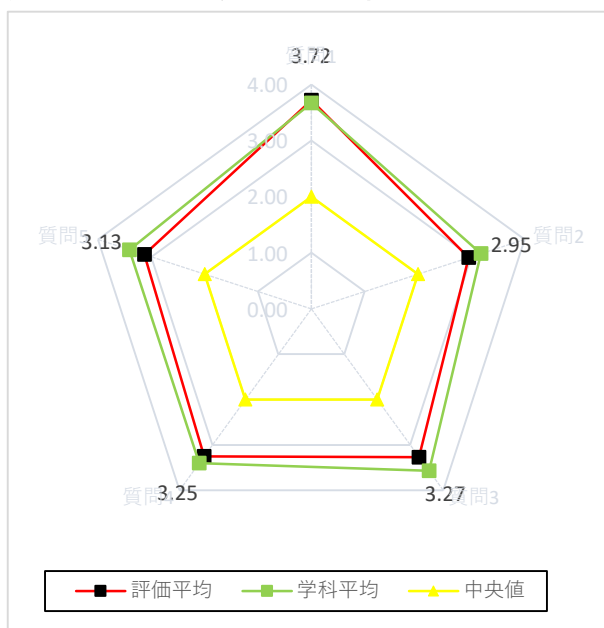
科目の特色を鑑み、理解しやすくかつ関心を持てるようなわかりやすい言葉や写真を多く用いた。オンライン授業であるため、スライドのフォントや色なども工夫した。また、テキストを中心にシラバスに沿って展開し、必ず前週の復習からスタートし、ポイント押さえを行った。適宜、チームスのフォルダーを活用し資料を配布した。質問6～13及び17はほぼ達成したが、学生数も多く、自身のオンライン授業の技術が不十分にて、質問16には課題が残る。

### (3) 次年度に向けての取り組み

該当科目は担当2年目となるため、昨年より内容の充実を図る。また、課題としてあげた、オンライン授業の技術をUPし、よりわかりやすい授業を心がける。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部 子ども学部	社会福祉 スポーツ健康福祉 心理カウンセリング		人体の構造と機能及び疾病Ⅱ	115名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

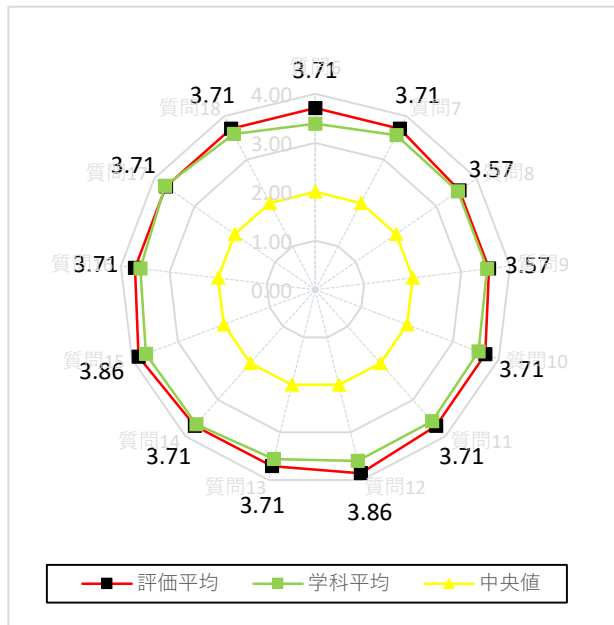
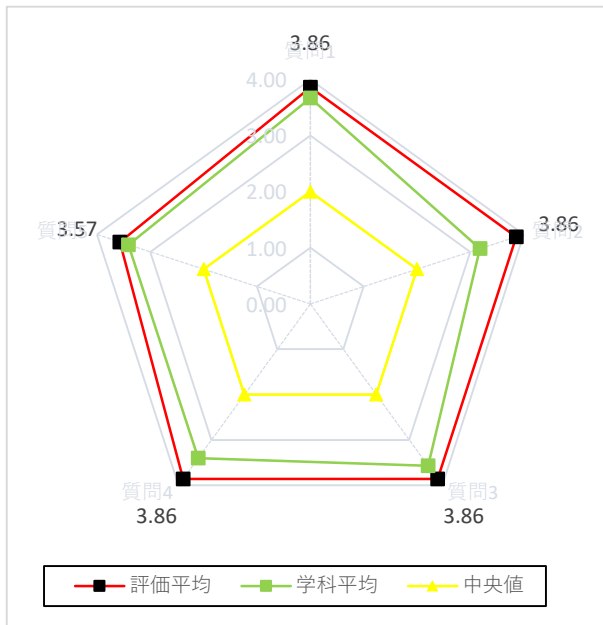
科目の特色を鑑み、理解しやすくかつ関心が持てるようなわかりやすい言葉や写真を多く用いた。オンライン授業であるため、スライドのフォントや色なども工夫した。また、テキストを中心にシラバスに沿って展開し、必ず前週の復習からスタートし、ポイント押さえを行った。適宜、チームスのフォルダーを活用し資料を配布した。質問6～13及び17はほぼ達成したが、学生数も多く、自身のオンライン授業の技術が不十分にて、質問16には課題が残る。さらには、質問はチャットや授業終了後に個別に質問があつた場合に受け、特別に質疑応答の時間を確保しなかった。

### (3) 次年度に向けての取り組み

該当科目担当2年目となるため、内容の充実に取り組む。オンライン授業のため、さらなるスライドの工夫や話しのスピード、配布資料の工夫を行う。また、質疑応答の時間確保と尋ねやすい雰囲気づくりを心がける。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		介護論	70名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

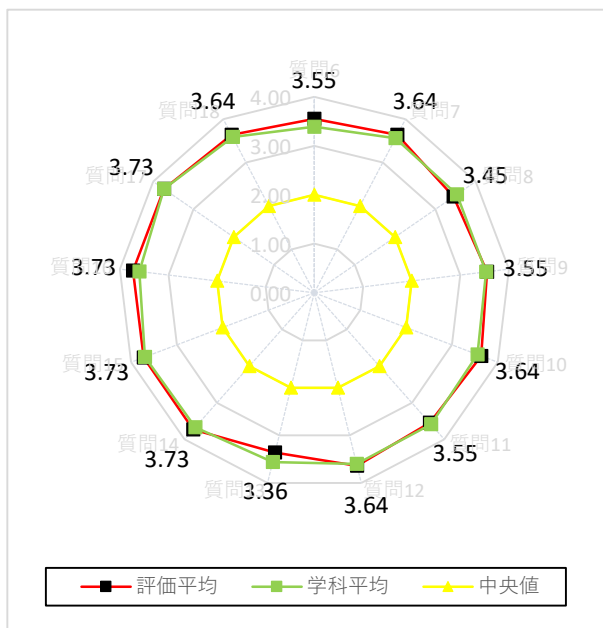
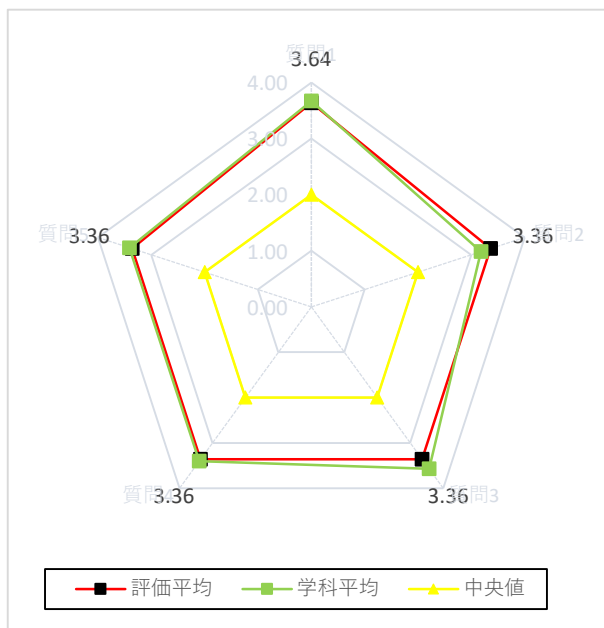
提出者がごく少数であることから、今回の結果は十分とは言えない。今後、アンケートを授業内で行うことを行い、学生からの意見をしっかりとフィードバックしていきたい。

### (3) 次年度に向けての取り組み

授業内で行うことを取り組みたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		相談援助の理論と方法Ⅲ	37名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

各項目平均点程度であるは、学生さんとの意見交換を行いながら進めることが出来た結果だと考える。質問13については説明・記載に時間がかかり、シラバスが少し遅れることがあったためと考えられる。今後の課題としたい。また、遠隔授業の為、資料の提示について工夫が必要であった。資料をTEAMS内に添付するタイミングが遅く、印刷等について学生が出来ていない場合があった。今後気を付けていきたい。

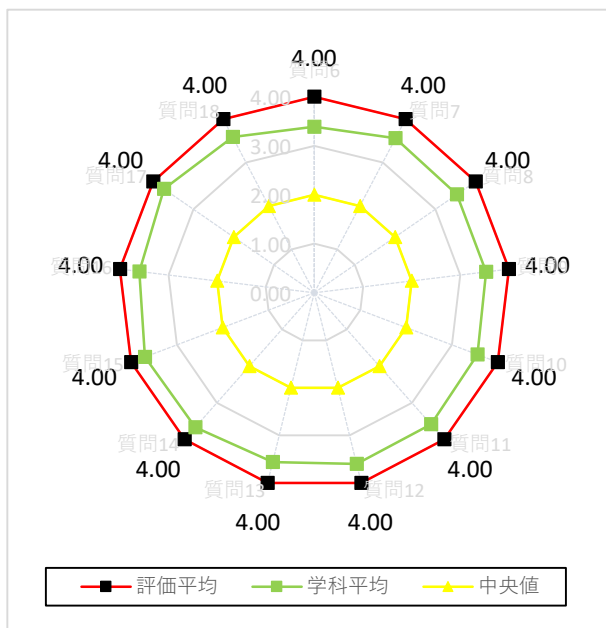
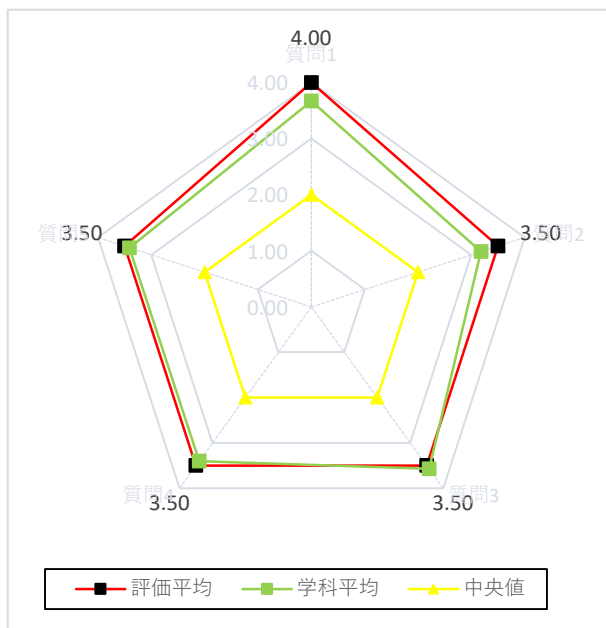
### (3) 次年度に向けての取り組み

進行速度については、遠隔授業から対面授業となるので、学生との話し合いを行いながら進めていきたい。又資料については、印刷等を授業内にて配布する工夫をしていきたい。



学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		相談援助の理論と方法Ⅳ	46名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

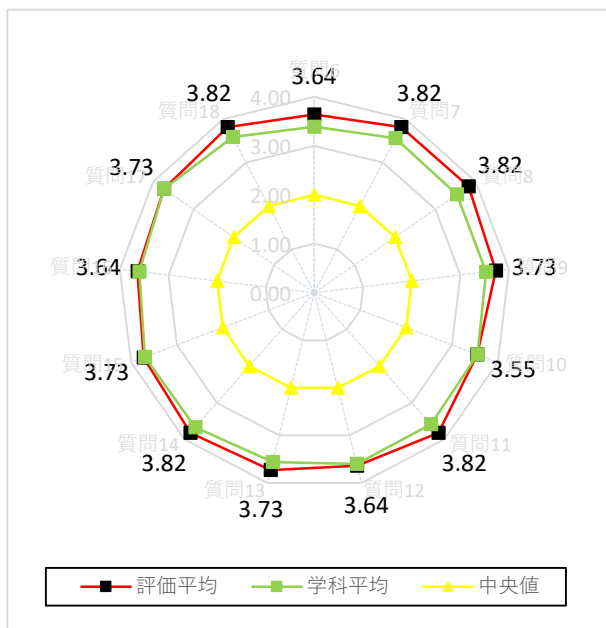
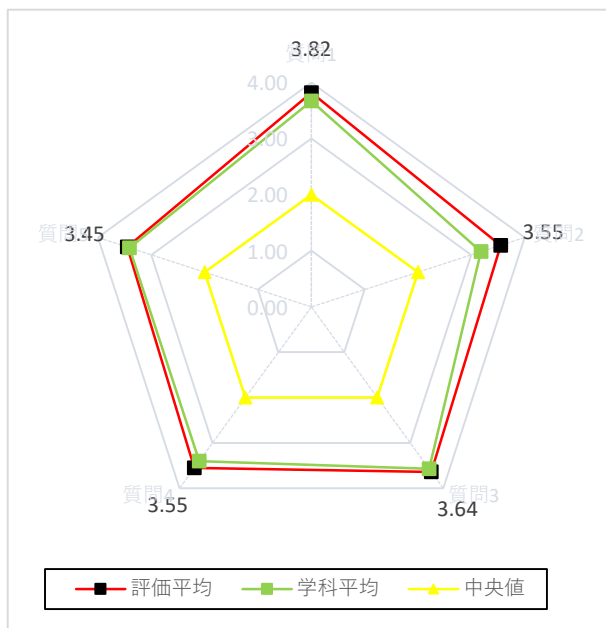
アンケート提出者がごく少数であることから、今回の結果は十分とは言えない状況である。今後、授業内で行っていきたい。

### (3) 次年度に向けての取り組み

授業中にアンケートの時間を取り、授業にフィードバックしていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		ユニバーサルデザイン概論	74名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

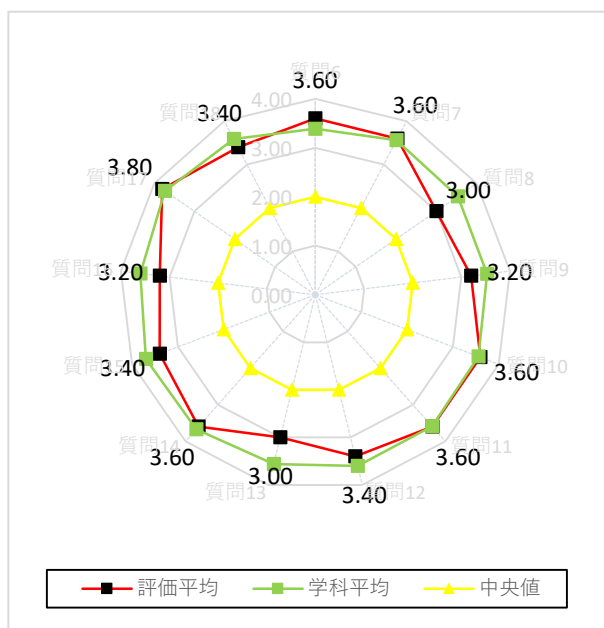
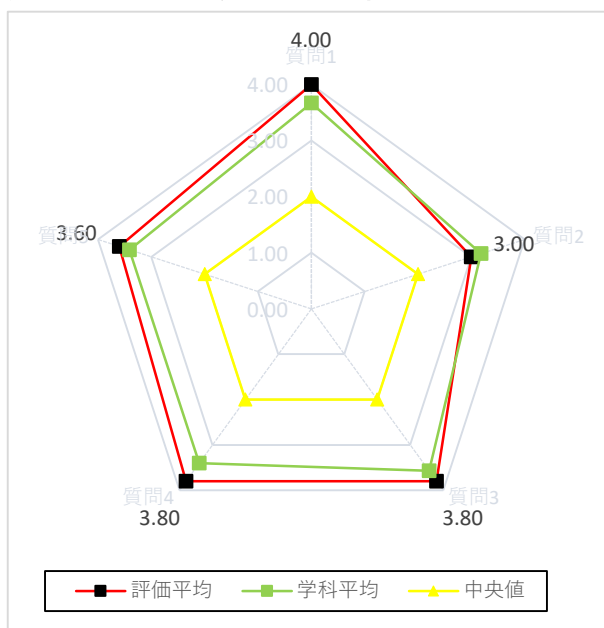
昨年同様にコロナ禍でのWEB授業であったが、今回より、ポータルサイト内での課題提出より、TEAMSを使用した双方向WEB対面授業に移行した。最初は、TEAMSの使用法に戸惑ったが、学生の参加状況については、ほぼ問題なく授業が可能であった。配布資料については、事前にTEAMSの資料内にPDFにて配布出来たのでスムーズな授業ができた。TEAMSの課題出題については、トライしたが、参加学生全員のレスポンスが不完全であったので、全員周知方法については、ポータルサイト内のお知らせメールおよび課題提出の方法とハイブリッドにて授業を行った。

### (3) 次年度に向けての取り組み

次年度については、今年度の課題として動画の共有方法を改善し、TEAMSでのチャット等を使用した簡単な課題提出等、学生への介入を実施していきたい。  
また、履修者数が比較的多い(74名)ので、TEAMS内での課題指示等の方法を、出来るだけ全員周知できるような仕組みについて、大学の情報室にて検討・ご教授していただけると幸いです。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		医療ソーシャルワーク	7名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

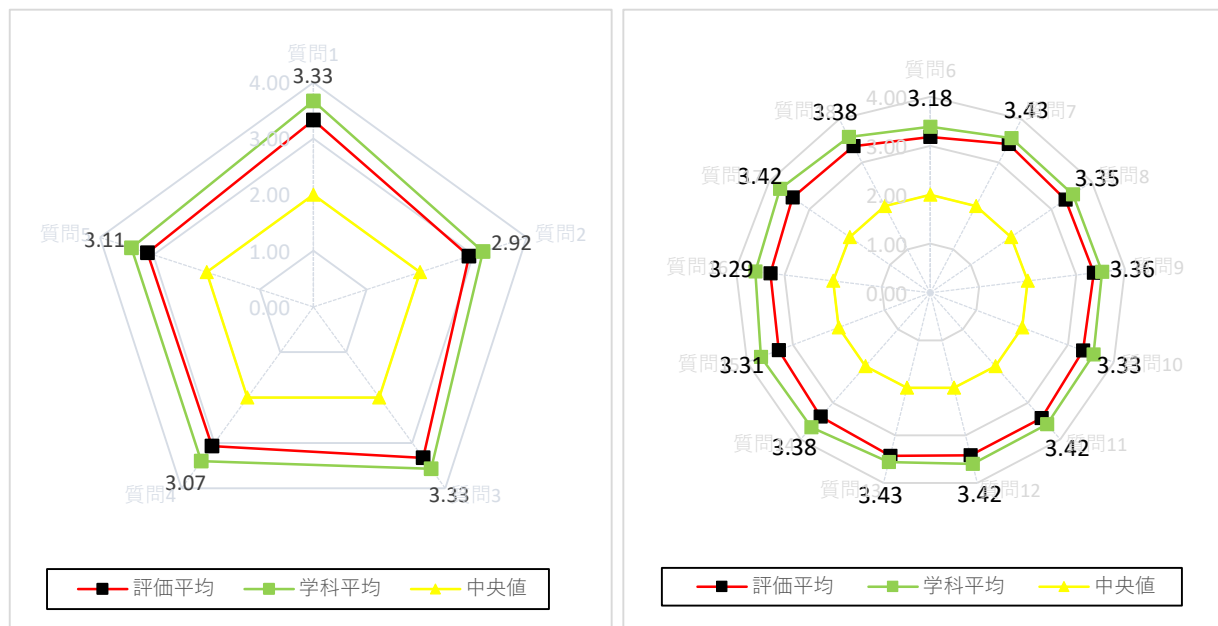
多学科との合同授業であり（他職種関連演習）学生より、難しいとの声が初回から聞こえていた。なるべくフォローをするように、社会福祉学科のみを集め、内容を整理していたが、難しいものであったと考える。3・4年生が対象であったが、専門的な内容であり、意図されて実践教育に基づくものであるため難しいを乗り越え学んでくれれば、現場では必要であり、大切なものである。学生は難しいとの結果を出しているが、教員間の反省では、とても学び深かったとの意見があることもでている。今後は興味を持ってもらえるよう、社会福祉学科の学生についてフォローを入れていきたい。

### (3) 次年度に向けての取り組み

事前説明と、他の関連教科で学びをいれ、関連付けながら進めていくことを考えていきたい。高度な内容であるが、実践ではこの難度が必要であることを伝えながら、専門職の力量をつけてもらうことを伝えていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		健康管理学	89名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

前任者の退職に伴い、新規に担当した科目である。

カリキュラム変更に伴いスポ学科は1年生と2年生の同時受講であり、履修者数が膨らんだ。

講義方法として、ZoomとTeamsを併用したオンデマンド型の遠隔授業を行っている。具体的には、

①初回に前期・後期分のオリジナル教材（学習ノート）を一括配布して授業方法を説明、

②毎回の授業時は、講師が授業の音声動画を事前録画（Zoom）して学生へ配信（Teams）、

③学生は各自で動画を見ながら学習ノートに記載、

④出欠管理として課題提出（練習問題）を行い、自由記載にて質問・感想を収集、

⑤次回の講義で練習問題の解説と質疑応答を全体にフィードバックした。

⑥最終回は定期試験（対面）の後、全体の解説・質疑応答を行った。

⑦録画は一定期間閲覧可能として復習に活用してもらった。

アンケート回答率が9%（8/89）と極めて低いため、回答した学生によるバイアスが大きいと考えられる。

回答率が低かった理由は不明であるが、周知不足の可能性がある。

回答した数少ない学生においては、授業態度も教官の評価も学科平均程度またはやや下回る結果となった。

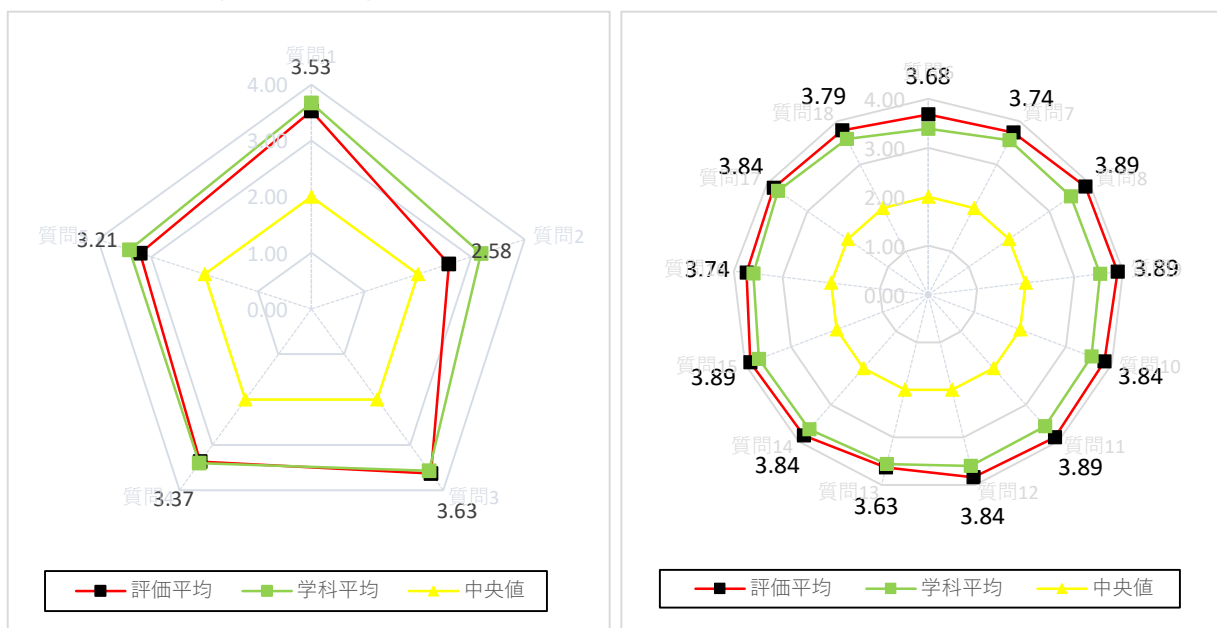
### (3) 次年度に向けての取り組み

学生の受講態度や理解度にはムラがあると考えられるため、

来年度はより丁寧な説明やフィードバック方法を工夫して取り組みたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		認知症の理解 I	28名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

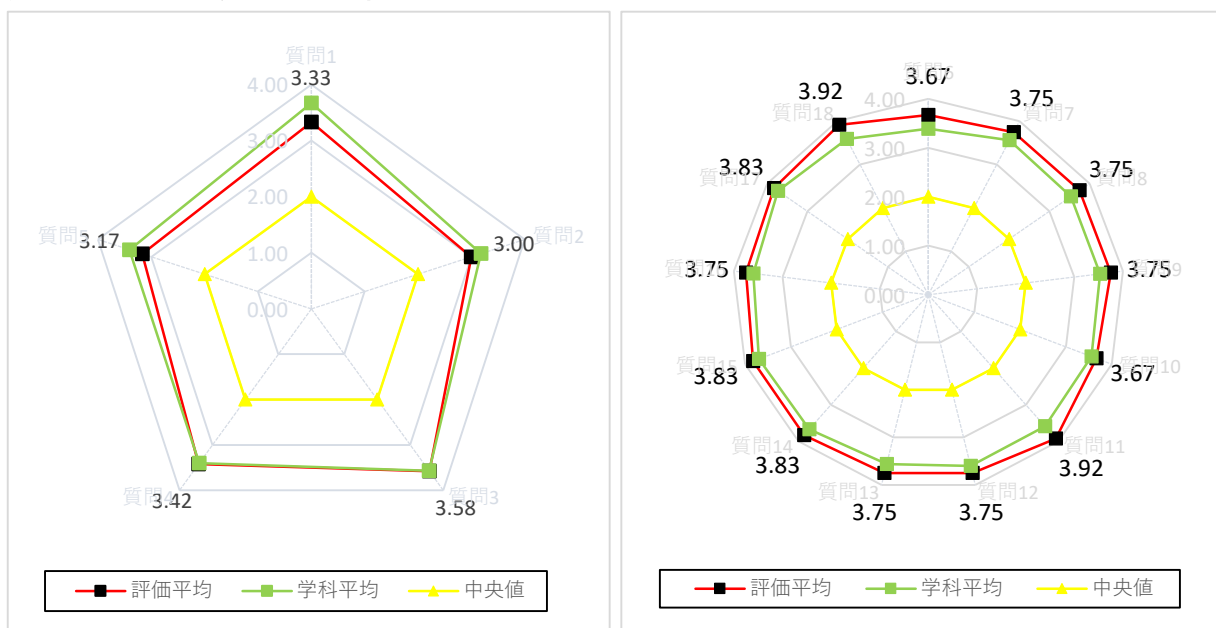
認知症の医学的理解が目的の科目であるため、学生が「認知症」そのものに関心を持ち理解が深まるよう配布資料（漫画風）などで工夫を行った。また、テキスト内に記載されている認知症当事者のDVDを活用し、理解の一助とした。質問16「双方向のやり取り」には課題が残る。

### (3) 次年度に向けての取り組み

次年度は該当科目の担当はなし。他科目の対面授業に今回の課題は活用する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		認知症の理解Ⅱ	32名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

12名の回答結果

学科平均と比較して、質問1, 2, 5が低く、質問6~18が高かった。他授業と同様に、Webサイト上のシラバスに加え、細かい内容や参考文献を記載した授業計画を授業の開始時に配布、説明したが、学生自身の学びとしては活用に至らなかったということであるとも読み取れる。

またこの授業は、対面授業で実施したが、海外で受講する研究生、やむを得ず登校できない学生はリモートで参加できるハイブリット授業を1回~15回ですべて実施したが、大きなトラブルもなく終えることができた。そのような意味で、受講に対する安心感があった可能性もある。

また毎回、授業後半ではリアクションペーパーの記入、次回の授業にて質問への回答（全体）へを繰り返して、質問の数が徐々に増えた。評価の数値には表れていないが、学生自身も積極的に問題意識や関心を持って授業に臨んでいたと言える。

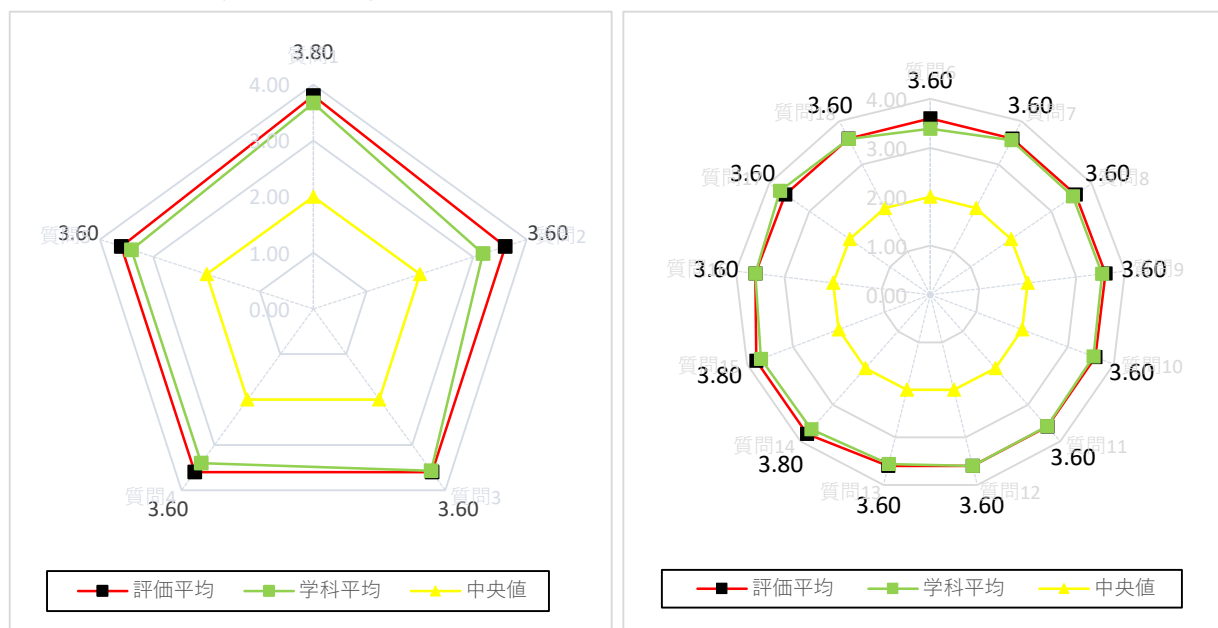
自由記述には「分かりやすく誠実に授業に取り組んで下さいました。有難うございます。」というコメントがあった。この内容については、認知症の方や家族の手記など、当事者の声を届ける工夫をしたことが要因ではないかと考える。

### (3) 次年度に向けての取り組み

授業の工夫が、学生の主体的な取り組みにつながるよう、ワークシートの工夫などに取り組みたい。引き続き、必要に応じてハイブリット授業の導入も継続する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		介護概論 I	10名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

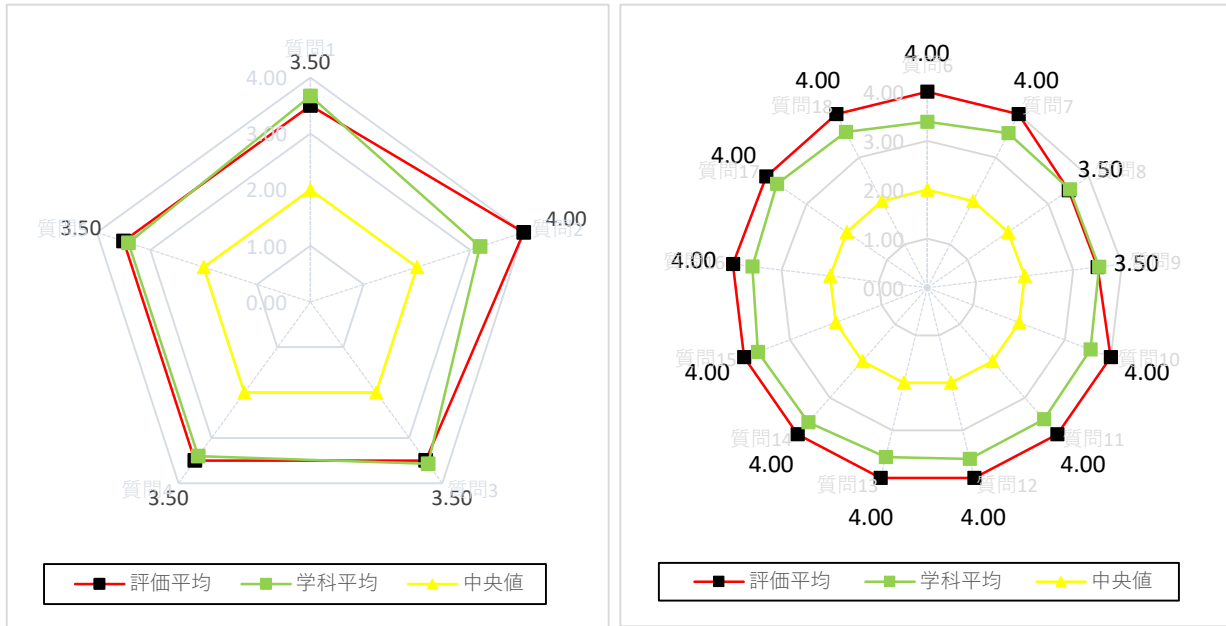
学科平均と概ね同じ点数もしくは若干高い結果であった。若干高かった内容は、質問2「シラバス（授業計画）を活用しましたか」と質問6「シラバス（授業計画）について説明がありましたか」であった。Webサイト上のシラバスに加え、細かい内容を記載した授業計画を授業の開始時に配布、説明した結果であったと考えられる。また質問14「学生の質問等に誠実に対応しましたか」、質問15「公平に学生に対応しましたか」であったについても若干高かった。この理由には授業の工夫というよりは、受講者の少なさがあると考えられる。

### (3) 次年度に向けての取り組み

介護福祉士の社会的意義や仕事のバリエーションについて理解を目指す科目であるため、引き続き、リアルティある授業を展開していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		介護概論Ⅱ	11名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

回答者数が少なく、評価自体の偏りがみられる。今後は、アンケートを授業内で行い、確実に返送してもらい、授業に活かしていきたい

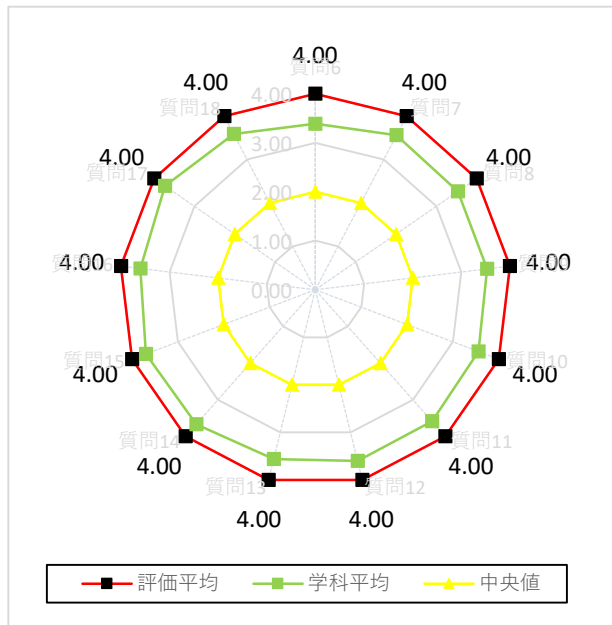
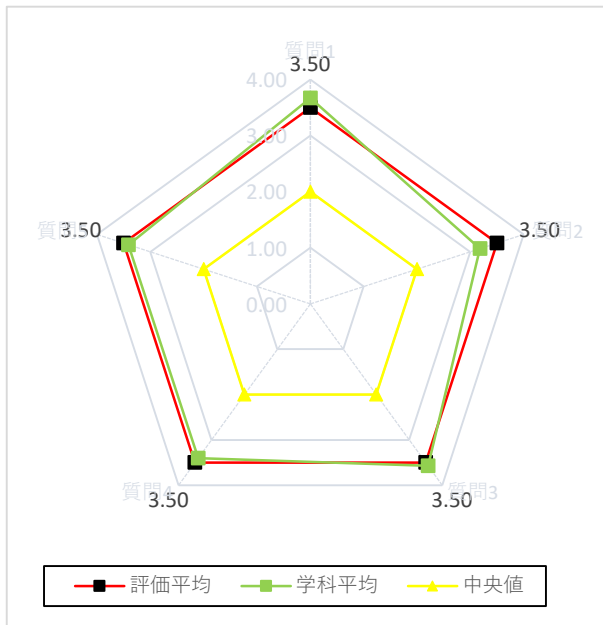
### (3) 次年度に向けての取り組み

授業時間内でのアンケートを実施したい



学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		介護サービス利用者論	14名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

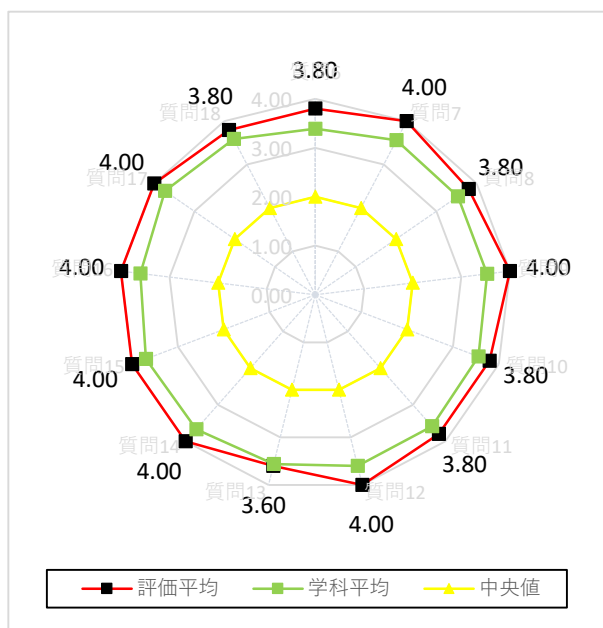
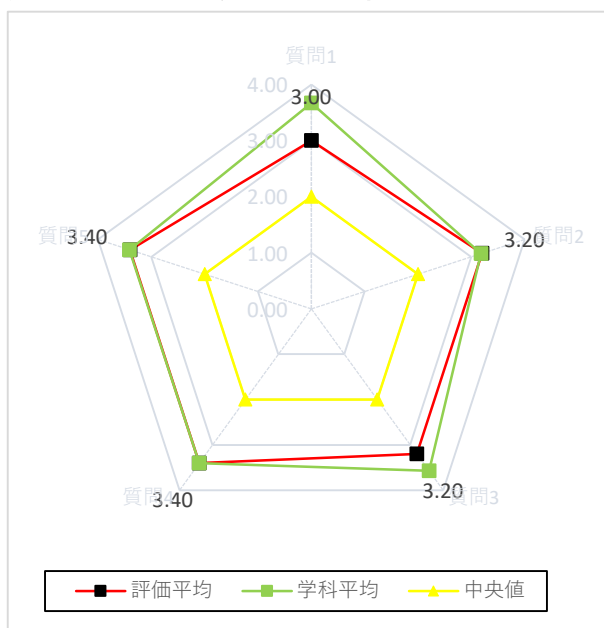
回答者数がとても少なく、アンケート欠化に偏りがみられている。今後は、アンケートを授業内で行いフィードバックしていきたい。

### (3) 次年度に向けての取り組み

授業内で実施することとする。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		介護サービス論 I	14名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

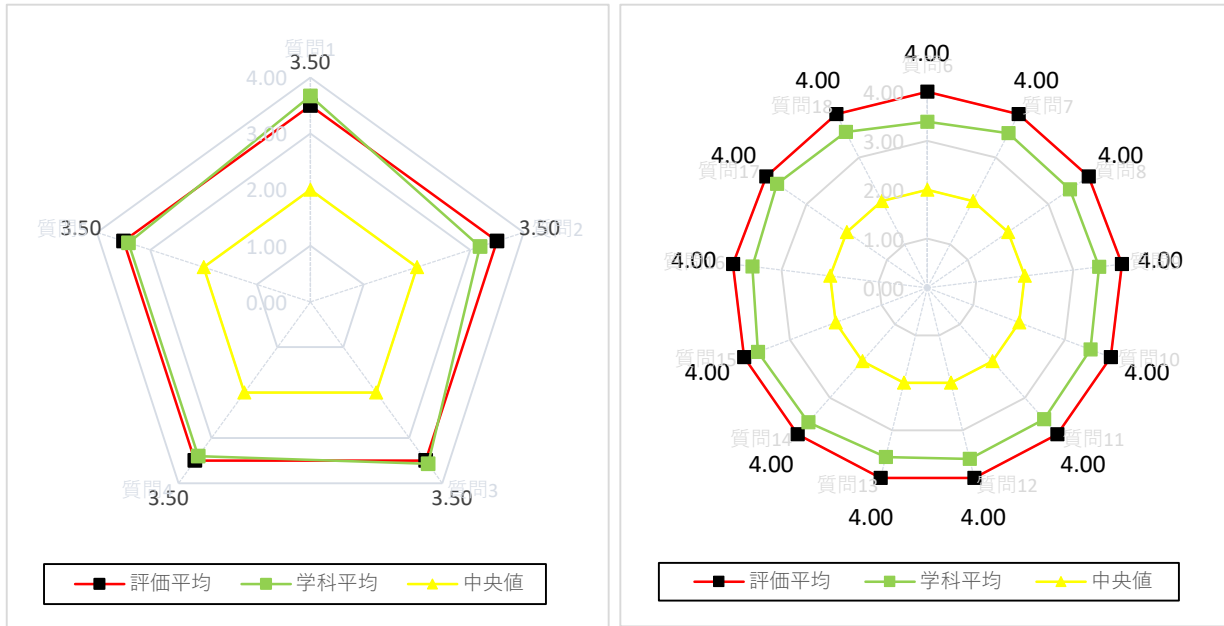
質問3についてが、平均以下であったことが気を付ける必要がある。居眠り・私語については、今後注意しながら行きたい。質問13については、学生の記載状況・取り組み状況によって変えてきたが、その点の説明が不足していたためと考えられる。

### (3) 次年度に向けての取り組み

今後、シラバスの状況、進捗状況については学生へ説明をいれながら、学生がわかるスピードで状魚を進めていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		介護サービス論Ⅱ	15名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

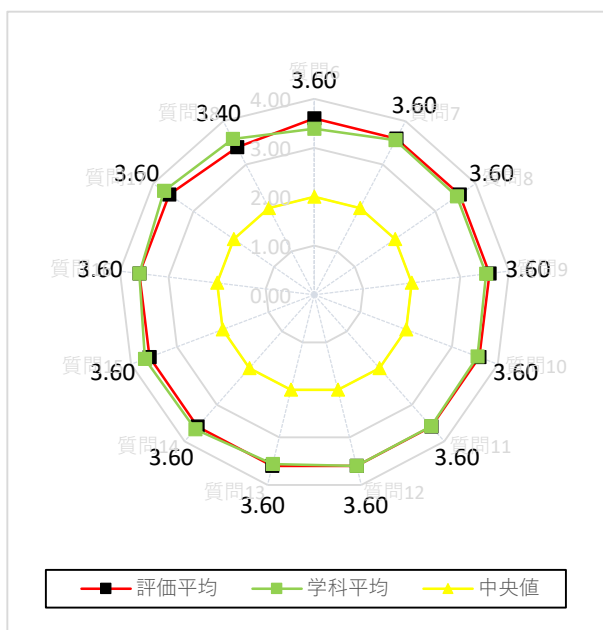
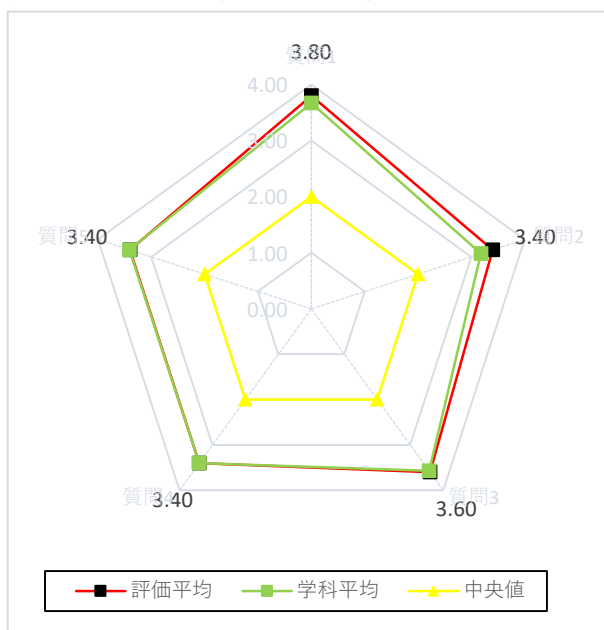
回答者数が少なく、結果に偏りがみられる。今後は授業内で行っていきたい。

### (3) 次年度に向けての取り組み

呼びかけはしていたが、結果としてごく少数の参加であることから、今後は、アンケートを必ず行うこと、提出についてのお願いを合わせてしていきたい

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		生活支援技術入門	11名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

学科平均と概ね同じ点数であった。

若干高かった内容は、質問2「シラバス（授業計画）を活用しましたか」と質問6「シラバス（授業計画）について説明がありましたか」であった。Webサイト上のシラバスに加え、細かい内容を記載した授業計画を授業の開始時に配布、説明した結果と考えられる。若干低かったのは、質問18「この授業を総合評価して下さい」であった。他項目が平均と同様であるが、総合評価が低い結果となったことについてさらに分析をする必要がある。

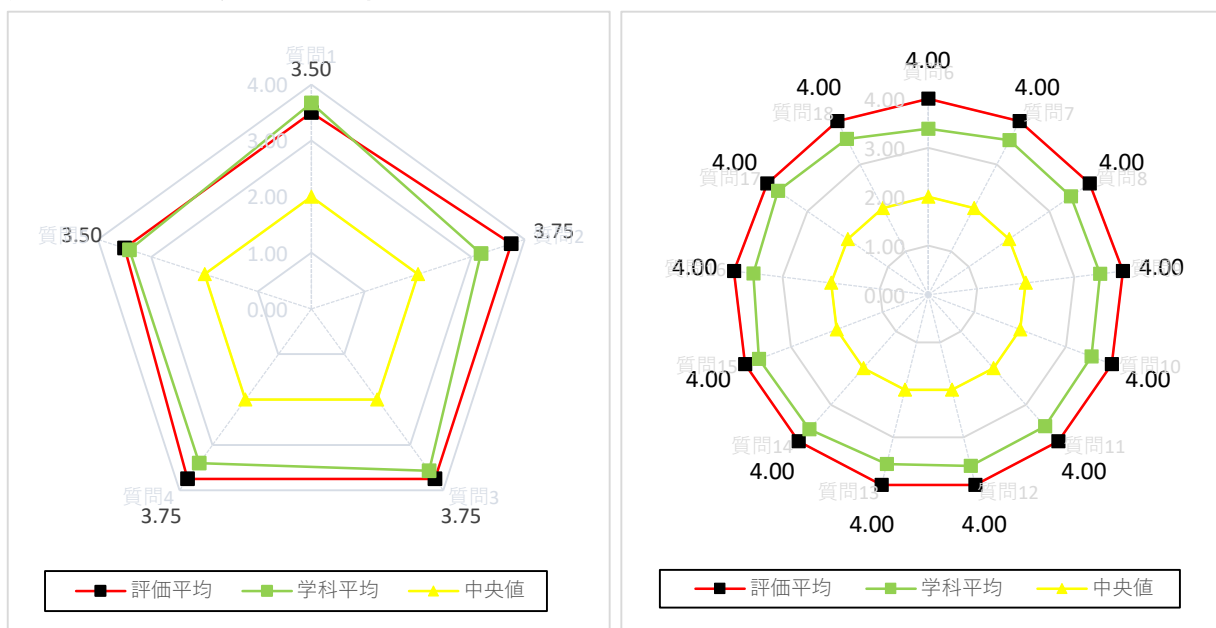
自由記述の記載はなかった。

### (3) 次年度に向けての取り組み

総合評価に若干の低さが見られたため、理由を分析する必要がある。次年度は他の先生の授業の工夫などについて情報収集し、改善につなげたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		応用生活支援技術 I (高齢者)	14名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

いずれも概ね、学科平均より高い結果となった。問2「シラバス（授業計画）を活用しましたか」であった。Webサイト上のシラバスに加え、細かい内容を記載した授業計画を授業の開始時に配布、また学生自身が授業計画を活用して自らの学習に活用できたと考える。受講者はいずれも介護実習 I～Ⅲまでを受講後（学内演習含む）であり、現場の利用者像と授業で学ぶ高齢者像が一致し、学ぶ意義や重要性が実感されていたため、授業評価の結果が高かったのではないかと考える。

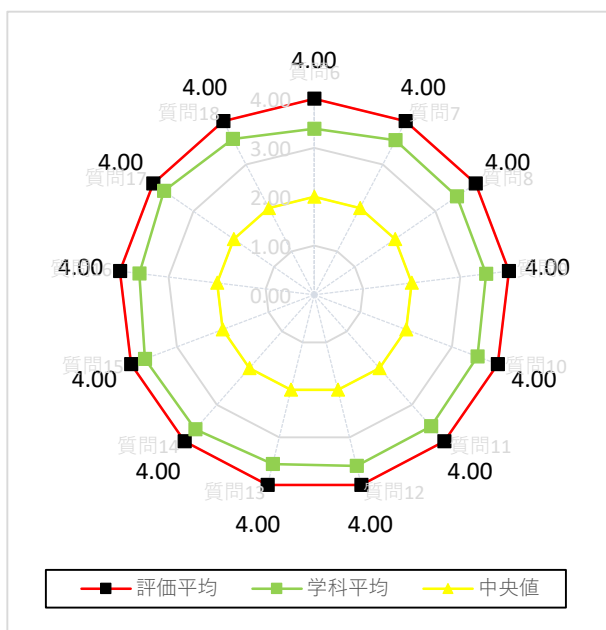
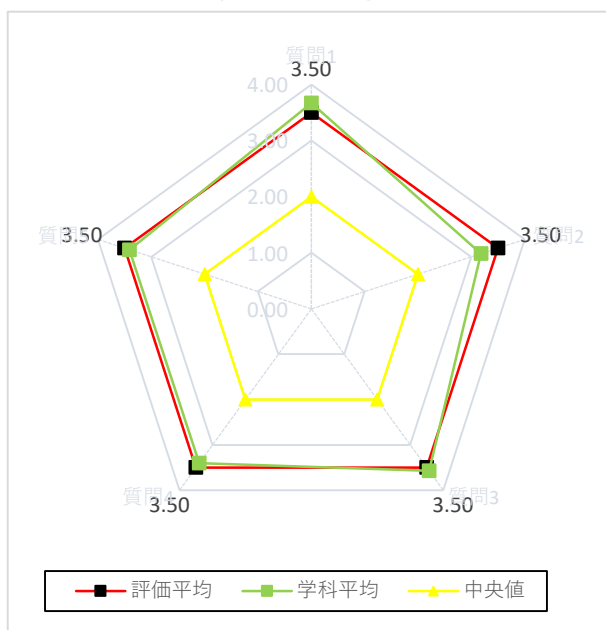
なお、受講者14名中、回答者が4名であり少ない結果となった。授業後のアナウンス不足など課題が挙げられる。

### (3) 次年度に向けての取り組み

今年度引き続き、具体例、実践例を示しながら、リアリティある授業を展開していきたい。授業終了後に、評価項目を紹介するなど、回答へ促す工夫が必要である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		応用生活支援技術Ⅳ(認知症)	14名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

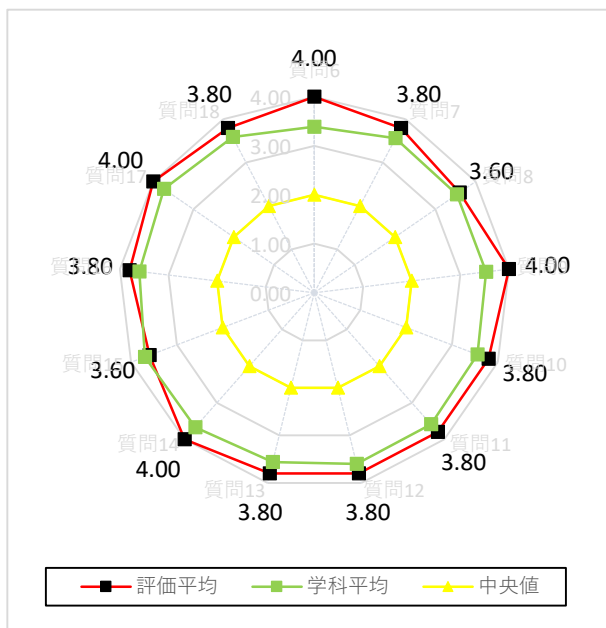
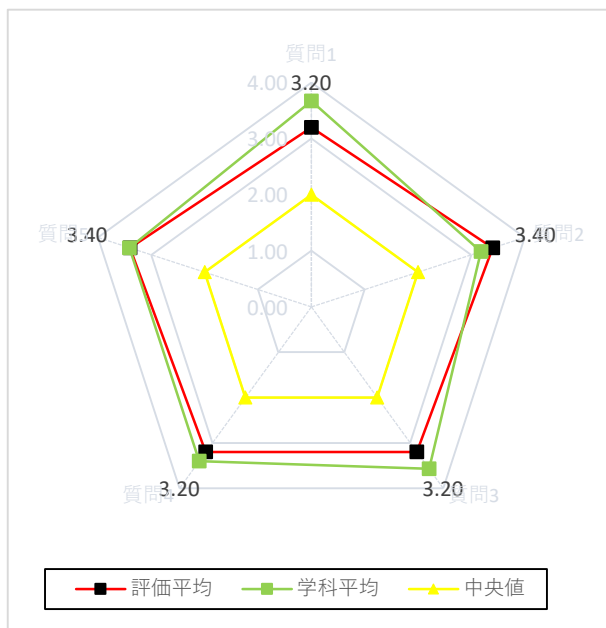
学科平均と概ね同じもしくは若干高い点数であった。  
 本科目の回答者は14名中2名であり、十分な評価に至っていない。

### (3) 次年度に向けての取り組み

授業内容は引き続き、リアリティのある授業、実習での経験を踏まえた知識・技術の獲得を重点に構成する。  
 評価入力者の少なさに対しては、評価項目を紹介するなど、回答へ促す工夫が必要である。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉		介護過程入門	14名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

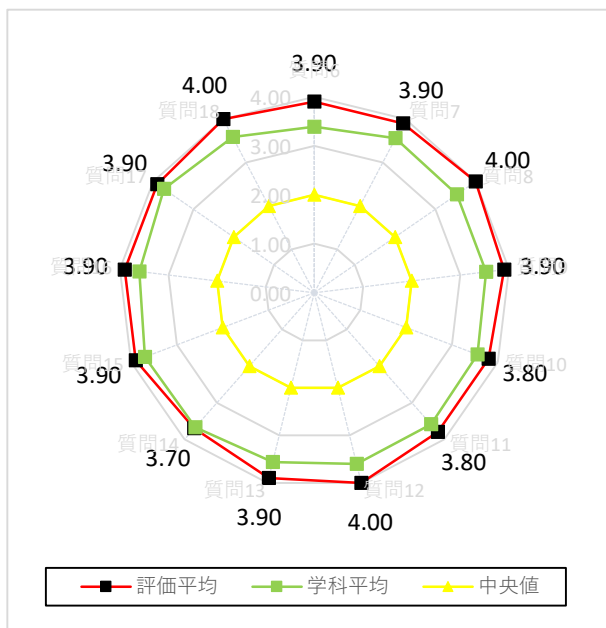
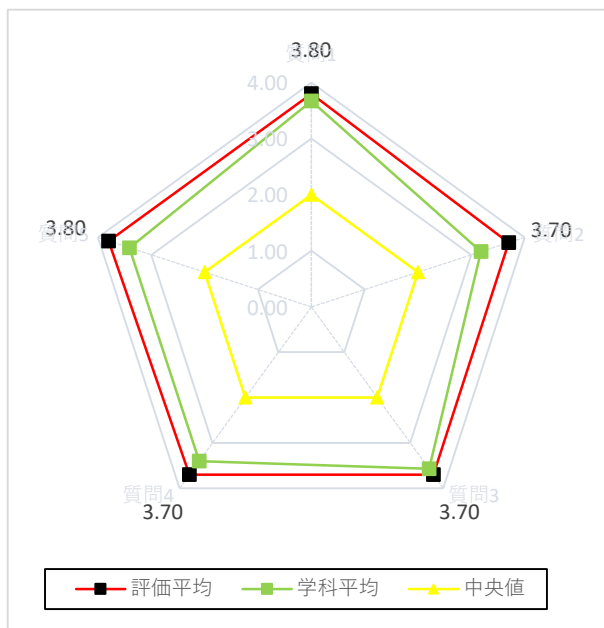
多くの項目で、平均的以上であり、学生の学びがあったことが、みられる。ただ、問8問15について平均値であるが、他の値と比べて、低い部分が今後の検討と考えられる。平等に接していたつもりであったが、学生からの意見を再度聞きながら、行っていきたい。自由記述には特に記載がないため、改善については、来年度の状業内で行ってきたい。

### (3) 次年度に向けての取り組み

項目的には平均以上であり、次年度も授業に気を付けて取り組んでいきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		レクリエーション支援演習	48名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

受講生48名中、10名から回答を得た。回答数が約2割であり参考になるとは言えないが、全ての項目が学科平均値を高く上回っている。前期の理論編はオンラインということもあり、評価が低い傾向にあったが、対面での授業実施ということもあり、例年と同じ評価が得られた。

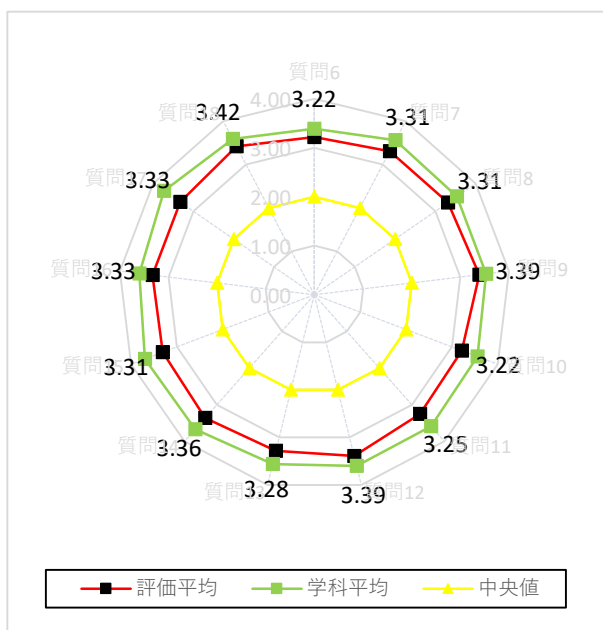
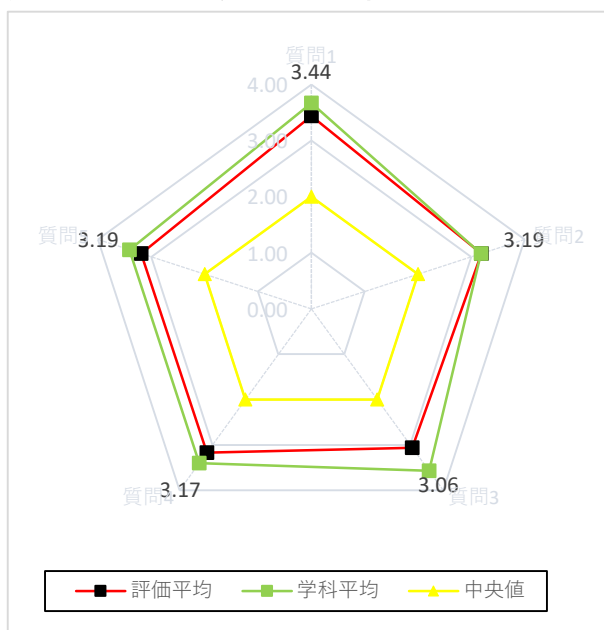
### (3) 次年度に向けての取り組み

現在の授業展開に特に問題となる点は見られないが、質問14「学生の質問等に誠実に対応」に対する評価が3.7と低かった。グループ発表の準備の段階から質問を促し、丁寧に対応することを意識していくことで改善に努めたい。



学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		レクリエーション支援論	44名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

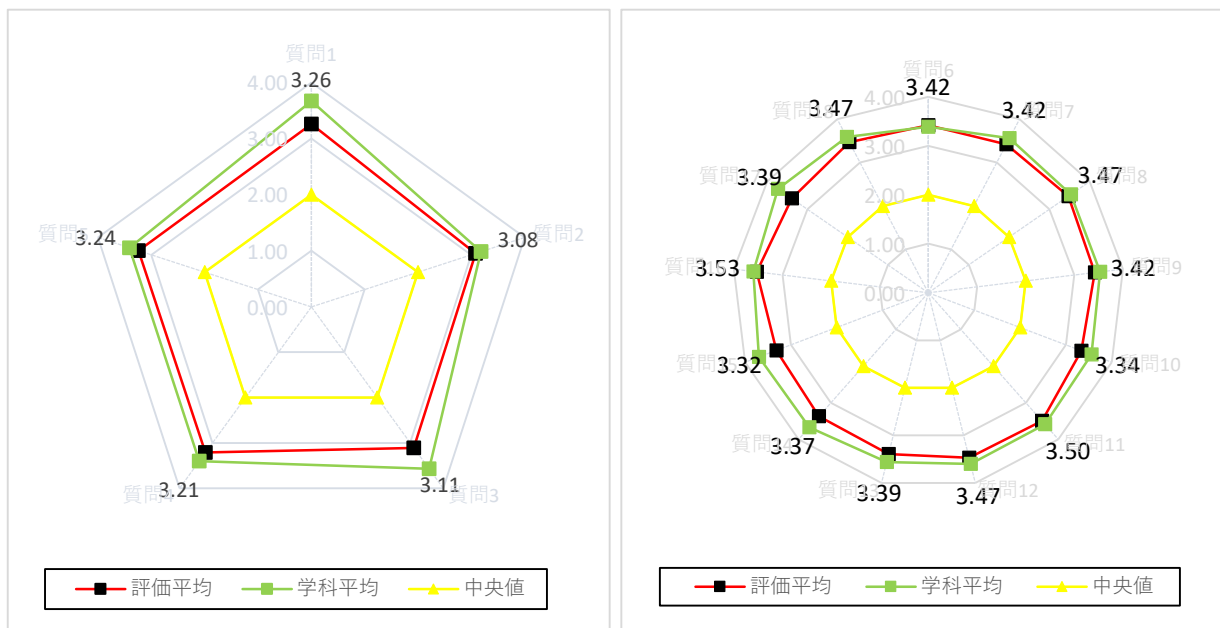
受講生44名中、36名から回答を得た。例年、全ての項目で学科平均値を上回る評価を得ている科目であるが、今年度は全ての項目で下回る値となっている。コロナ禍によるオンライン形式での授業が強いられたことが大きな要因として考えられる。

### (3) 次年度に向けての取り組み

対面授業での授業展開であれば学生の評価も高まることは過去の結果から証明済みであるため、可能な限り対面での実施を目指すと同時に、オンライン授業でも同等の学びが提供できるような工夫に取り組んでいく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		アダプテッド・スポーツ 論	50名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

50名中、38名から回答を得た。

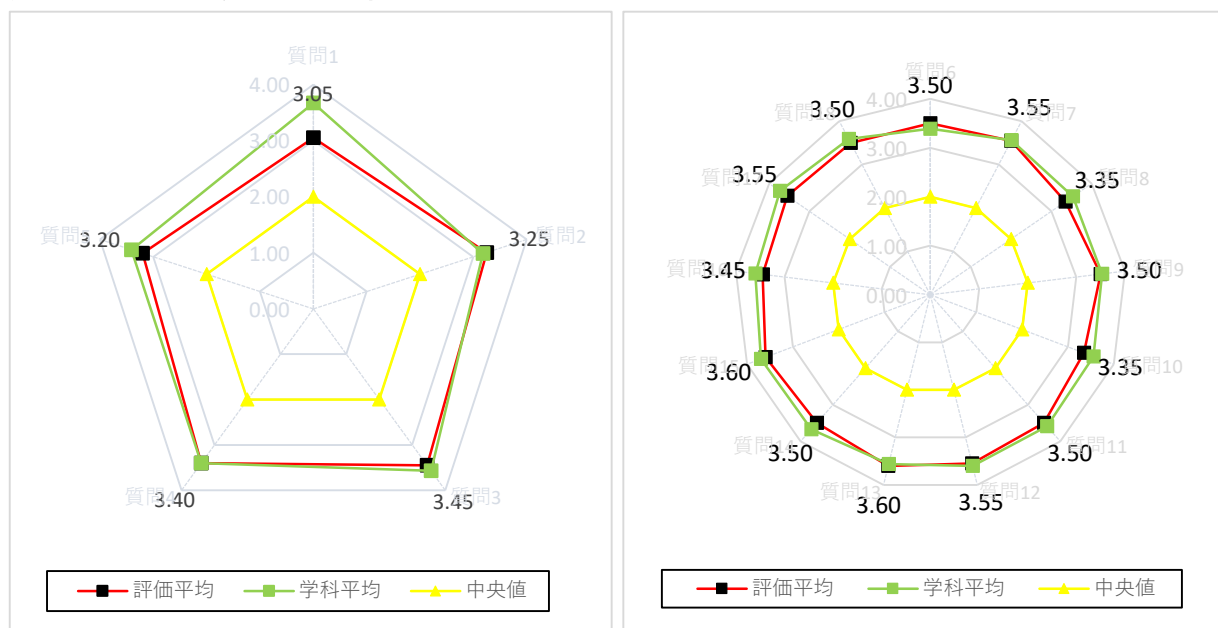
総合評価では、昨年度の3.13から3.47と高い数字の評価となったが、学科平均も同時に高まっていたため、今年度も学科平均を僅かに下回る結果となった。昨年度、低い値を示した質問8「授業は興味・関心が持てる工夫がされていたか」については、他の項目より高い値を示し改善が見られた。

### (3) 次年度に向けての取り組み

本科目は障がいのある人のスポーツのあり方を学ぶことで、老若男女、運動やスポーツを苦手にする人への指導・支援方法を理論的に学ぶ内容となっている。今回、学科平均値との差が大きかった「学生の質問等に誠実に対応」「公平に学生に対応」「教員は熱心さ」の3項目については、障がい者スポーツ施設時に協力をいただいている2名の非常勤講師とも話し合いを行い、学生の反応を確認しながらの展開を意識していくようにする。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	社会福祉 スポーツ健康福祉		リハビリテーション論	30名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

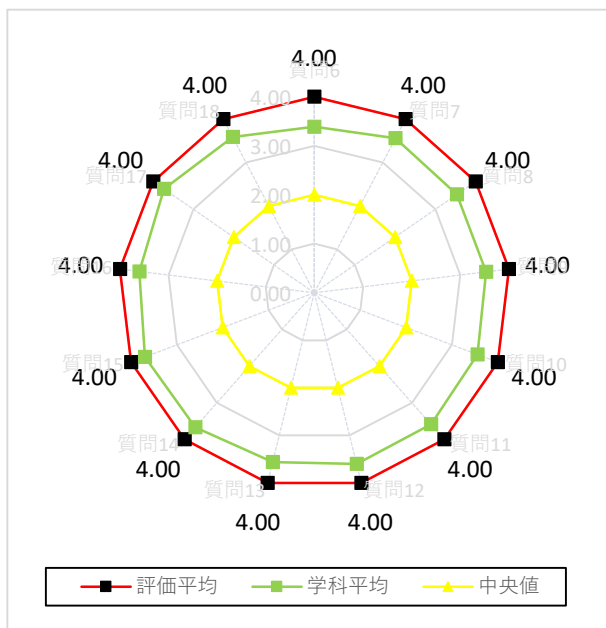
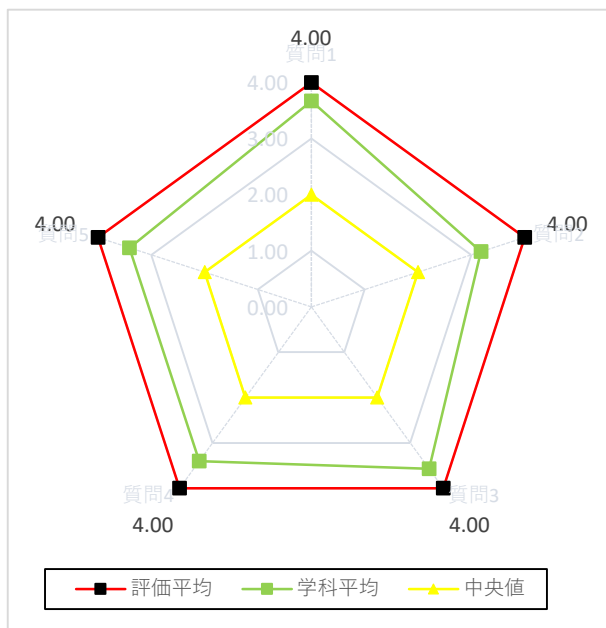
2021「リハビリテーション論」の授業評価回答率は67%（20名/30名）であった。  
 質問18【総合満足度】は良い：55%（11名），概ね良い：40%（8名），やや悪い：5%（1名）であった。  
 自由記述では「教科書は分かりやすかった」との書き込みのみ確認された。  
 講義は全て遠隔で行い，毎回課題（minutes paperを含む）を提示して提出を求め，出席と課題提出を評価の対象とした。  
 遠隔で実施したため，学生の表情や反応を細かく把握することは困難だった。  
 一方，上記の如く，満足度調査で1名の学生を除き，95%の学生が「満足」「やや満足」と回答していたことから講義は成果を残したと解している。

### (3) 次年度に向けての取り組み

遠隔で実施する講義のため一方通行にならないように心掛けているが，毎回，学生からの発言は認められない。  
 引き続き，課題（minutes paperを含む）をコミュニケーションツールとしても活用し，学生のニーズの把握に努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		あすなろう I 基礎 (初年次教育含)	8名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

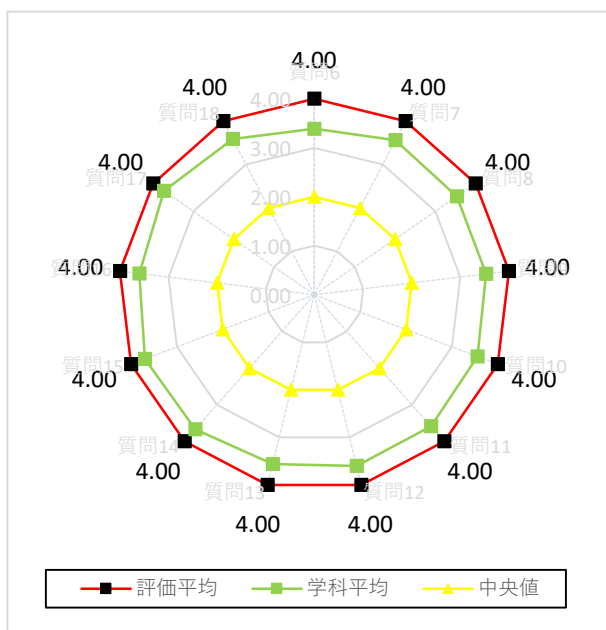
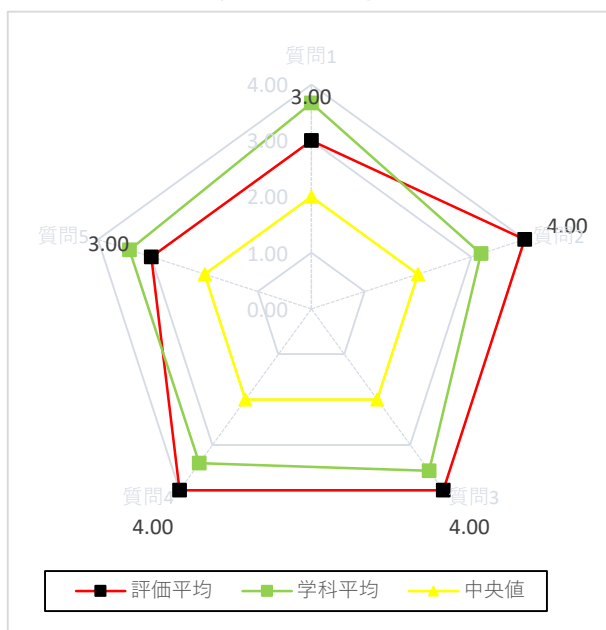
履修者8名中アンケートの回答が1名のため結果の分析、評価は難しいが、学科全体およびゼミ活動より社会人基礎力や学生生活における大切なことが学べたものと察する。

### (3) 次年度に向けての取り組み

必修科目であることで本学における「あすなろう」教育の重要性を理解してもらえるよう、今後も授業改善に取り組みたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		あすなろう I 基礎 (初年次教育含)	8名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

本科目は共通教育科目/キャリア形成(必修科目)として、1年次に通年で開講しており、私が担当するゼミ生8名が履修した。

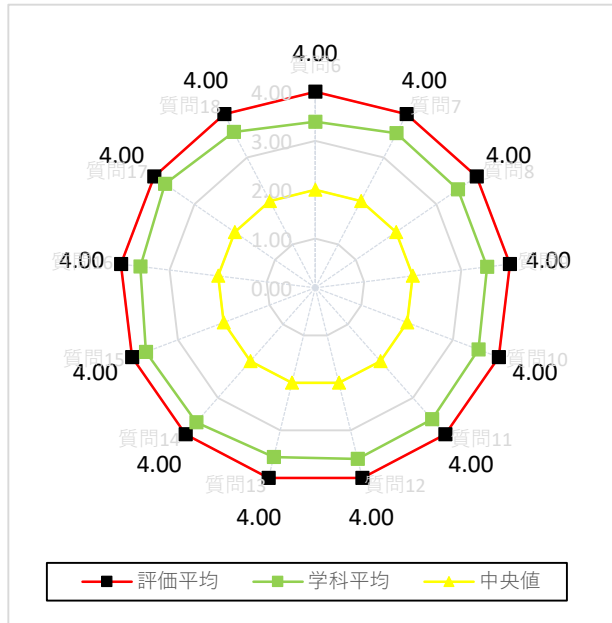
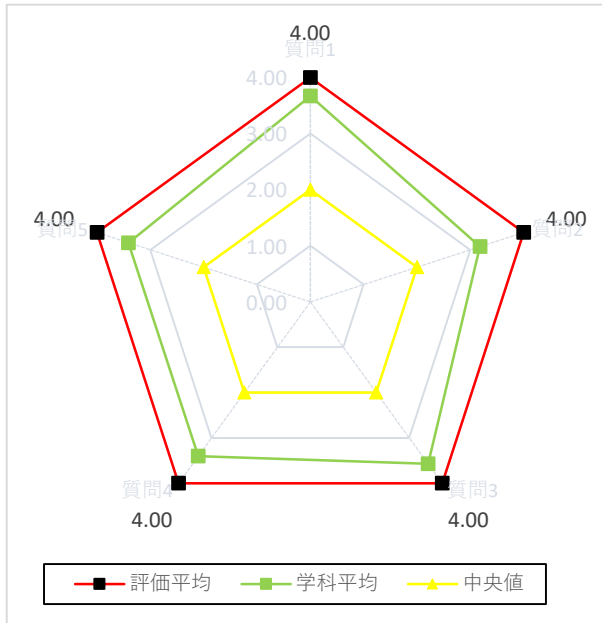
履修学生8名のうち1名から回答があり、すべての質問項目において学科平均を上回る結果を得たものの、回答率を向上させる努力が必要であると考えられる。

### (3) 次年度に向けての取り組み

基本的には本年度と同様の取り組みを実施する予定であり、授業評価のために回答率を向上させる声かけを行っていきたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		あすなろう I 基礎 (初 年次教育含)	8名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

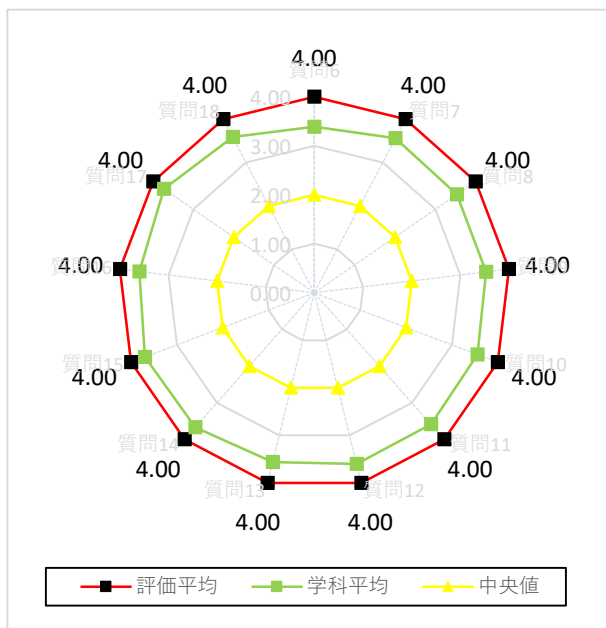
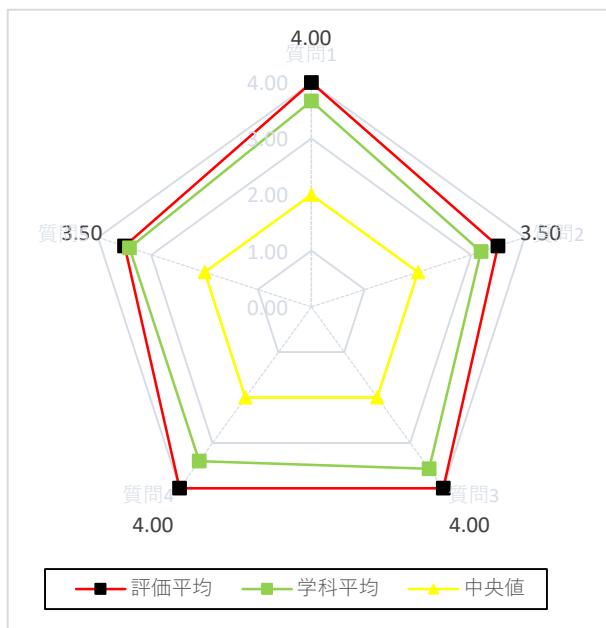
8名中、1名から回答を得た。  
 回答者1名ということで、次年度は受講生全員から評価が得られるように声かけを行う必要がある。そして、ゼミ別での指導機会が少ないため、学年全体での授業展開に対する評価としてみる必要があるであろう。

### (3) 次年度に向けての取り組み

特になし。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		ウェルネス・スポーツ	16名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

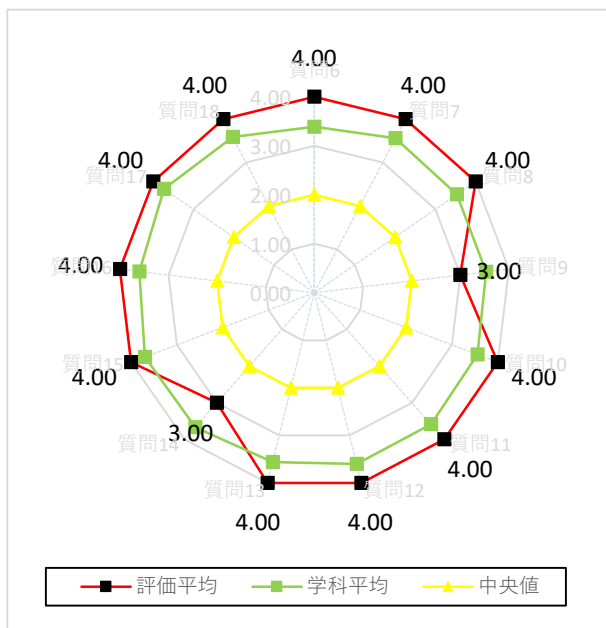
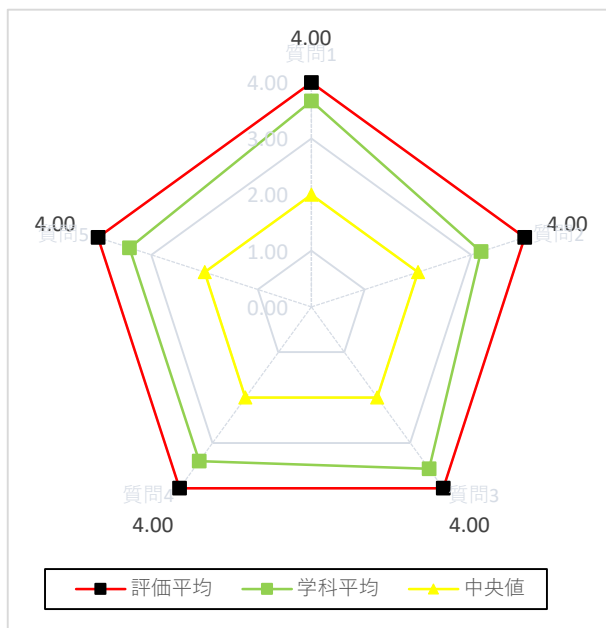
自主的・主体的に運動、スポーツに取り組めるように、受講者の意見を重視し実施内容を柔軟に変更したり、組み合わせながら実施した。回答者が少なく、積極的に取り組んだ受講者の意見といえるが、ほぼすべての項目で、高い評価を得たと判断できる。今後は、自己評価も含めてまずアンケート回答数が増えるように、講義時間内での回答や受講者個々への入力促進を進めていきたい。

### (3) 次年度に向けての取り組み

今年度初めての講義だったので、次年度も内容的には同じ方法によって実施する予定である。実施担当曜日が変わるため受講者の特徴によって、必要があれば変更も含め、受講者の運動、スポーツ種目のニーズにこたえられるように方法を考えていく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		データサイエンス演習	8名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

8名中、1名から回答を得た。

回答者1名ということで、次年度は受講生全員から評価が得られるように声かけを行う必要がある。

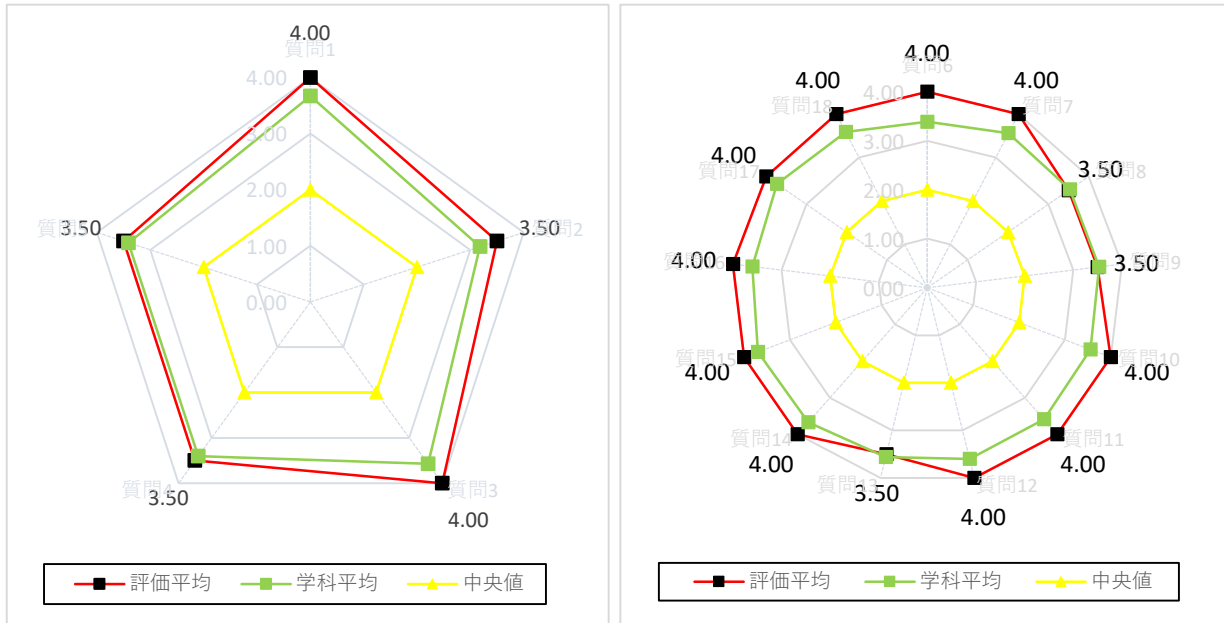
### (3) 次年度に向けての取り組み

新規科目で手探り感が否めない授業展開であった。学年全体を2グループに分けて進める方法も、途中から全体での授業に変更し教員が分担して授業を実施した。学生の評価が得られなかったのが残念だが、今回の実績を基礎として学生自身が学習成果を確認できる内容の展開に努めていきたい。



学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		データサイエンス演習	8名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

本科目は共通教育科目/データサイエンスの理解(必修科目)として、1年次の後期に開講しており、担当するゼミ生8名が履修した。

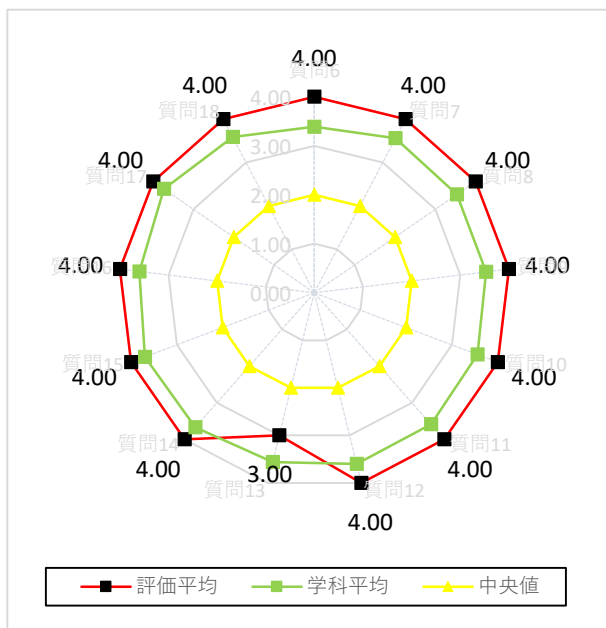
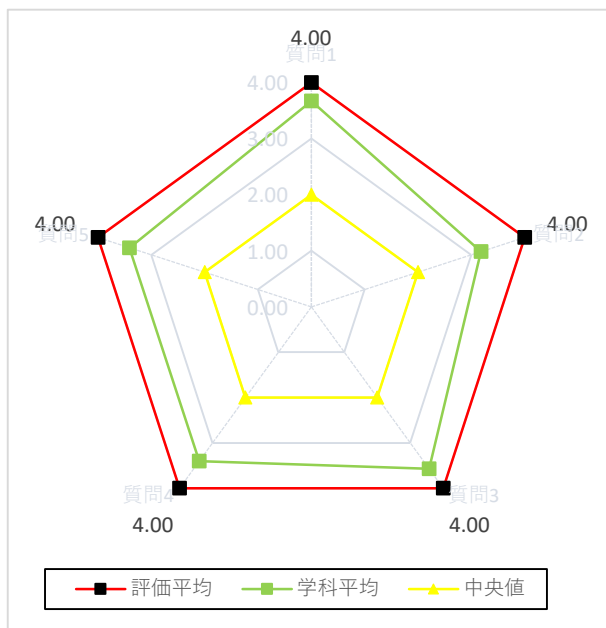
履修学生8名のうち2名から回答があり、ほぼすべての質問項目において学科平均を上回る、または同程度の評価を得た。今後も学生の意欲を引き出す声かけを継続していくことが重要であると考えられる。

### (3) 次年度に向けての取り組み

基本的には本年度と同様の取り組みを実施する予定であり、さらに学生の意欲を引き出す働きかけを行っていきたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		データサイエンス演習	8名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

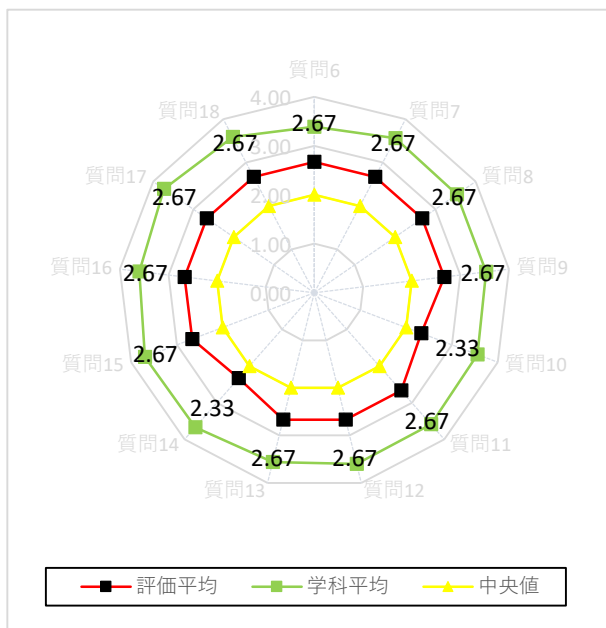
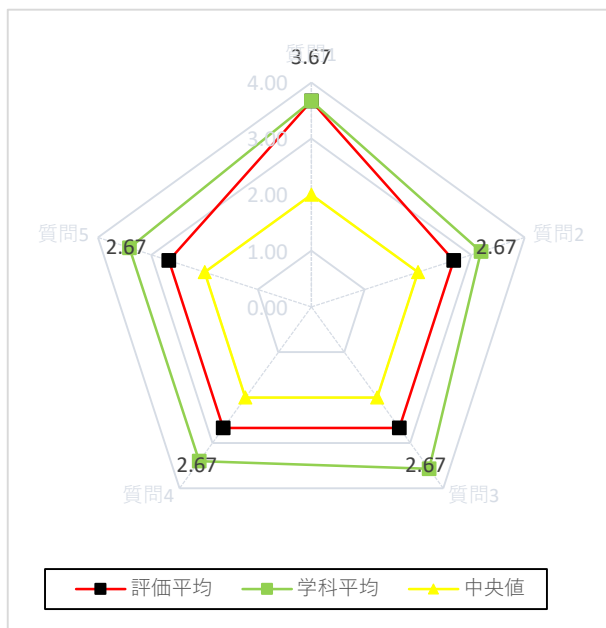
この教科については今年度からの新規必修科目であるため、学科内でもその取り組みを何度か検討をした。履修学生よりいろいろな意見等を期待したが、本ゼミからは1名の回答のため分析、評価には難し状況である。

### (3) 次年度に向けての取り組み

1名の回答者であるものの、質問13の「授業の進む速さ」が少し評価が低かったことから、今後改善できるよう学科内で検討したい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		スポーツ健康福祉学演習 I	8名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

本科目は専門教育科目/学科専門科目/ゼミナール(必修科目)として、3年次に通年で開講しており、私が担当するゼミ生8名が履修した。

履修学生8名のうち3名から回答があり、ほぼすべての質問項目において学科平均を下回る結果となった。ただし、教員に関する質問項目2および学生の意欲・態度に関する質問項目6「シラバスの活用」は一定の評価を得たことから、見通しを持った学修が実践されていたと考えられる。

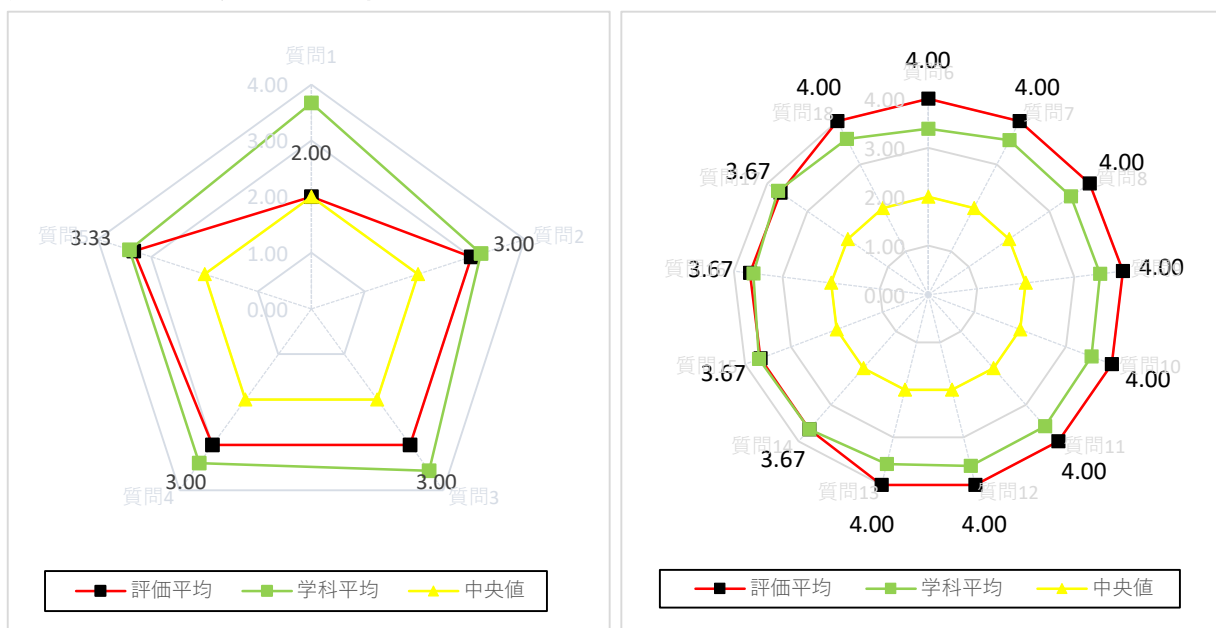
3名の回答ではあるものの、学生の意欲・態度に関する項目の質問1「欠席回数」は学科平均を上回ったことから、出席に対する意欲は高い状態で臨んでいたことが伺える。

### (3) 次年度に向けての取り組み

基本的には本年度と同様の取り組みを実施する予定であり、さらに学生の意欲を引き出す働きかけを行っていきたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		スポーツ健康福祉学演習 I	8名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

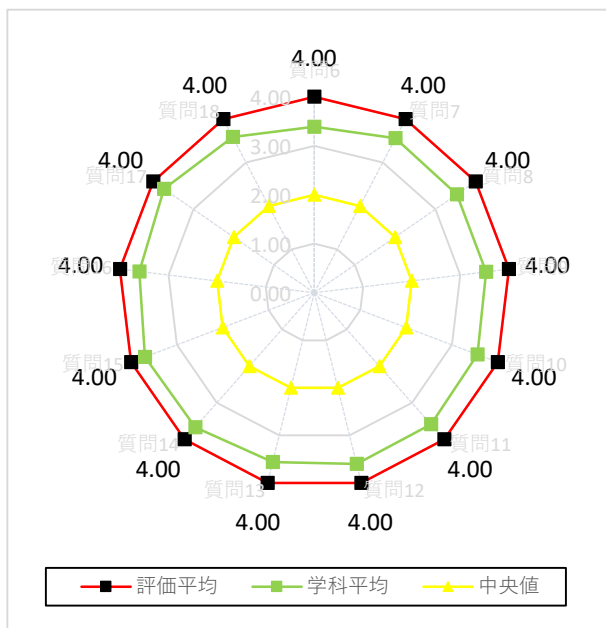
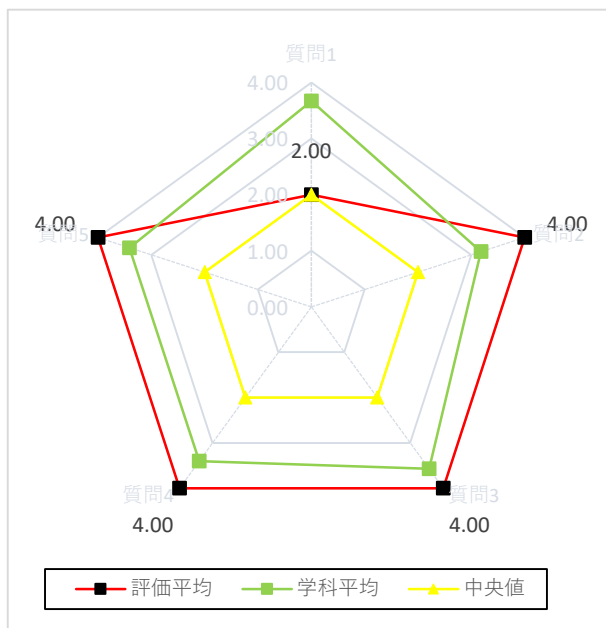
多くの質問で3または4のほぼ良好な回答であったものの、質問1の「出席状況」と質問8の「授業への興味、関心の工夫」においては、2の評価があった。選択科目であるものの将来の職場で少しでも役立つ実践的授業であることから、学科全体で今回のアンケート内容を共有して改善に取り組みたい。また、自由記述で「授業連絡を早めにしてほしい」記載があり、このコロナ感染状況で一部日程変更もあったことに対しての意見と考えられる。ゼミ内では事前に年間の活動スケジュールについての資料を配付していた。

### (3) 次年度に向けての取り組み

実践的な体験活動であるこの授業に、今後も興味や関心が持てるよう授業改善に努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		スポーツ健康福祉学演習Ⅱ (含卒業研究)	6名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

本科目は専門教育科目/学科専門科目/ゼミナール(必修科目)として、4年次に通年で開講しており、私が担当するゼミ生6名が履修した。

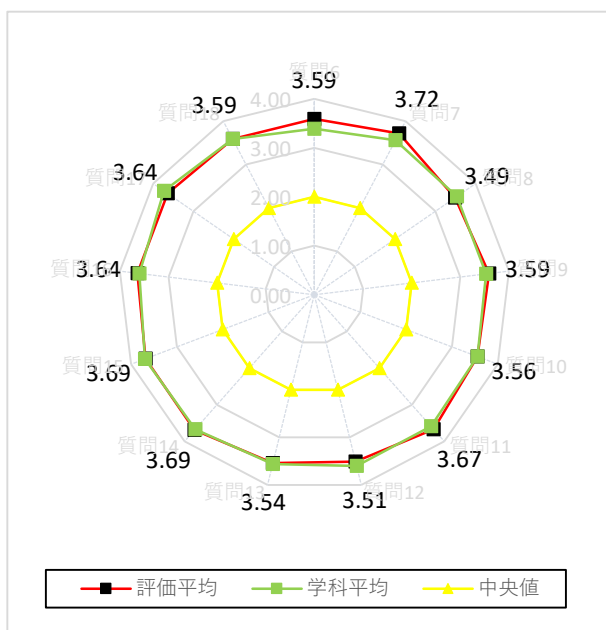
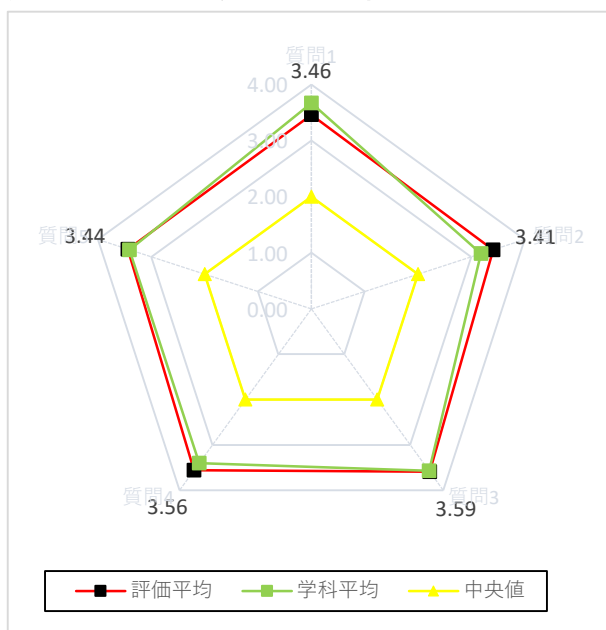
履修学生6名のうち1名から回答があり、ほぼすべての質問項目において学科平均を上回る結果を得たものの、回答率を向上させる努力が必要であると考えられる。

### (3) 次年度に向けての取り組み

基本的には本年度と同様の取り組みを実施する予定であり、授業評価のために回答率を向上させる声かけを行っていきたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		スポーツ文化論	52名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

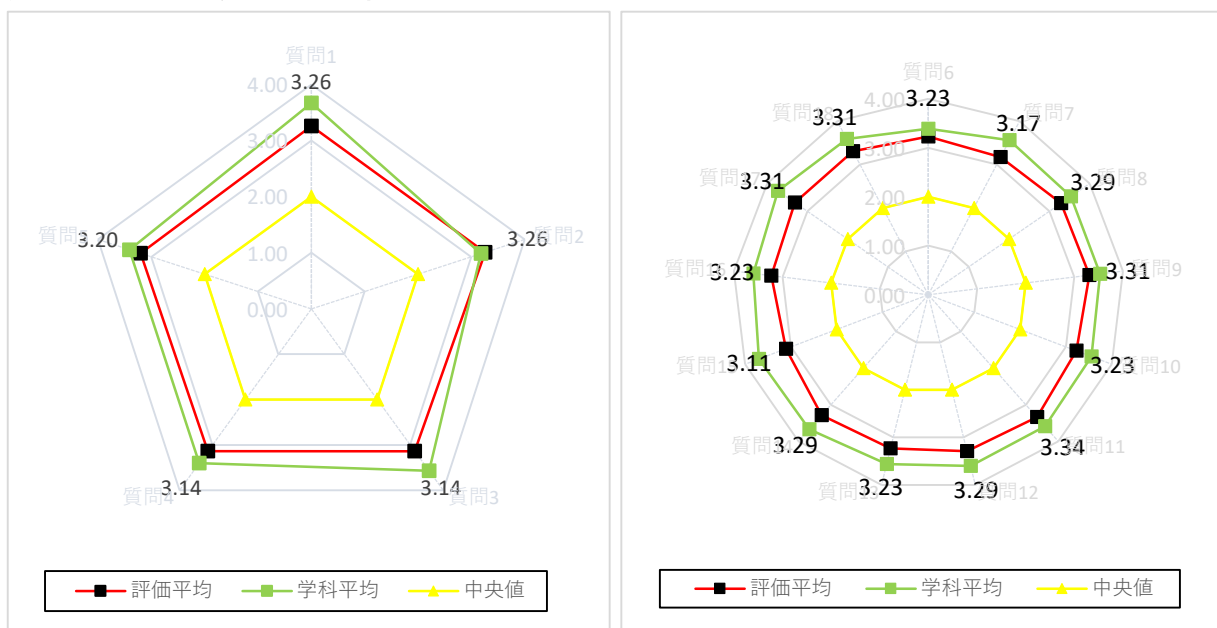
52名中39名から回答を得た。  
 全ての項目で学科平均値を上回っている。その中でも「興味・関心が持てる工夫」3.49と「声の大きさ・明瞭さ・話す速さは適切さ」3.51の2項目が若干低い評価となっていた。  
 なお、「声の大きさ・明瞭さ・話す速さは適切さ」については、特に「話す速さ」だと予想される。

### (3) 次年度に向けての取り組み

「興味・関心が持てる工夫」と「話す速さは適切さ」の2項目については、時事問題を例に解説することや、こちらの説明時に「間」を置くなど工夫する必要がある。なお、これらの点についてはミニッツペーパーで評価してもらい学生の評価を確認しながら改善していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		ユニバーサルデザイン各論	40名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

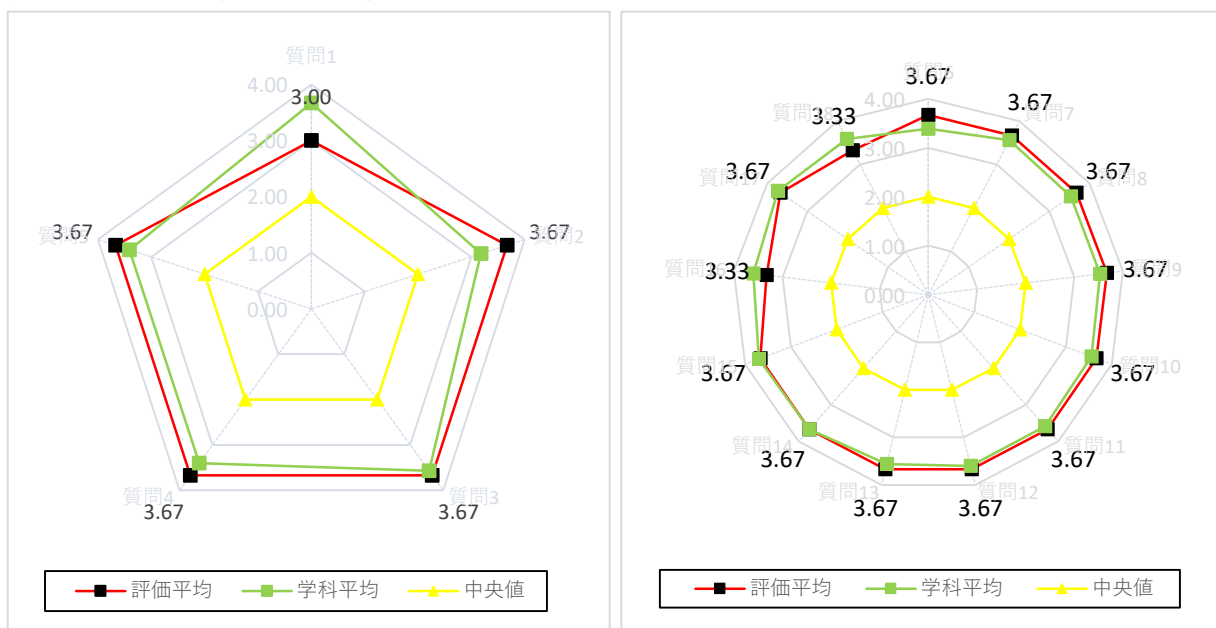
昨年同様にコロナ禍でのWEB授業であったが、今回より、ポータルサイト内での課題提出より、TEAMSを使用した双方向WEB対面授業に移行した。最初は、TEAMSの使用法に戸惑ったが、学生の参加状況については、ほぼ問題なく授業が可能であった。配布資料については、事前にTEAMSの資料内にPDFにて配布出来たのでスムーズな授業ができた。TEAMSの課題出題については、トライしたが、参加学生全員のレスポンスが不完全であったので、全員周知方法については、ポータルサイト内のお知らせメールおよび課題提出の方法とハイブリッドにて授業を行った。

### (3) 次年度に向けての取り組み

次年度については、今年度の課題として動画の共有方法を改善し、事業無いでチャット等を使用した、簡単な課題提出等、学生への介入を実施していきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		健康生活と福祉技術	19名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

昨年同様にコロナ禍でのWEB授業であったが、今回より、ポータルサイト内での課題提出より、TEAMSを使用した双方向WEB対面授業に移行した。最初は、TEAMSの使用法に戸惑ったが、学生の参加状況については、ほぼ問題なく授業が可能であった。配布資料については、事前にTEAMSの資料内にPDFにて配布出来たのでスムーズな授業ができた。TEAMSの課題出題については、トライしたが、参加学生全員のレスポンスが不完全であったので、全員周知方法については、ポータルサイト内のお知らせメールおよび課題提出の方法とハイブリッドにて授業を行った。

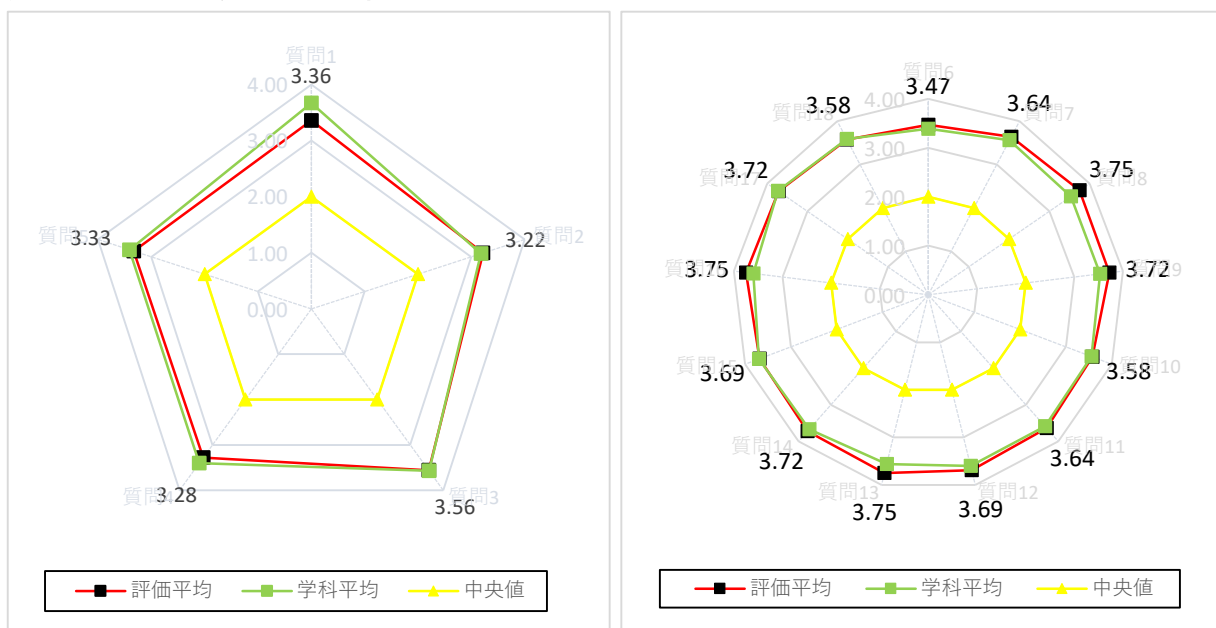
### (3) 次年度に向けての取り組み

次年度については、今年度の課題として動画の共有方法を改善し、TEAMSでのチャット等を使用した簡単な課題提出等、学生への介入を実施していきたい。



学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		機能解剖学	47名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

本科目は専門教育科目/学科専門科目/健康スポーツに関する科目/基礎科目(選択科目)として、1年次の後期に開講しており47名の学生が履修した。

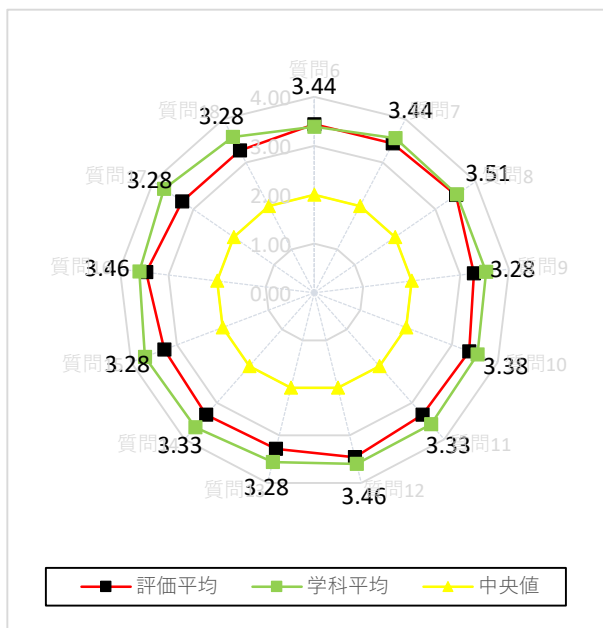
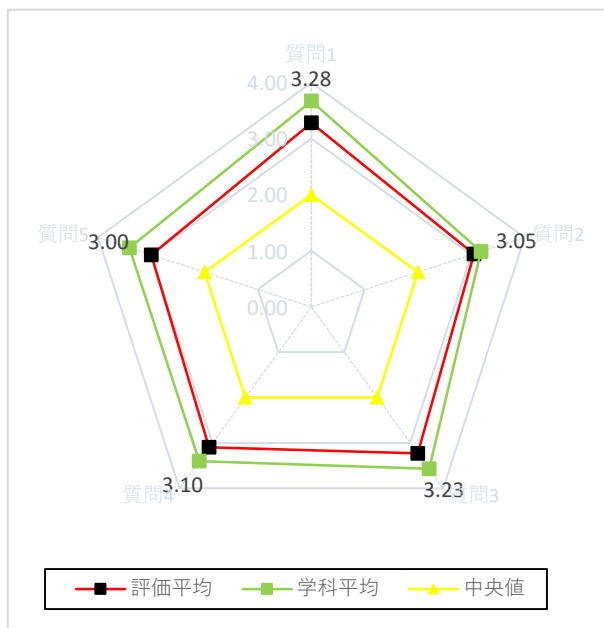
履修学生47名のうち36名から回答があり、ほぼすべての質問項目において学科平均値と同程度、またはやや上回る評価を得た。ただし、学生の意欲・態度に関する項目の質問1「欠席回数」は学科平均をやや下回っていたことから、学生の意欲を引き出す声かけが必要であると考えられる。

### (3) 次年度に向けての取り組み

基本的には本年度と同様の取り組みを実施する予定であり、さらに学生の意欲を引き出す働きかけを行っていきたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		スポーツ社会学	54名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

54名中、39名から回答を得た。

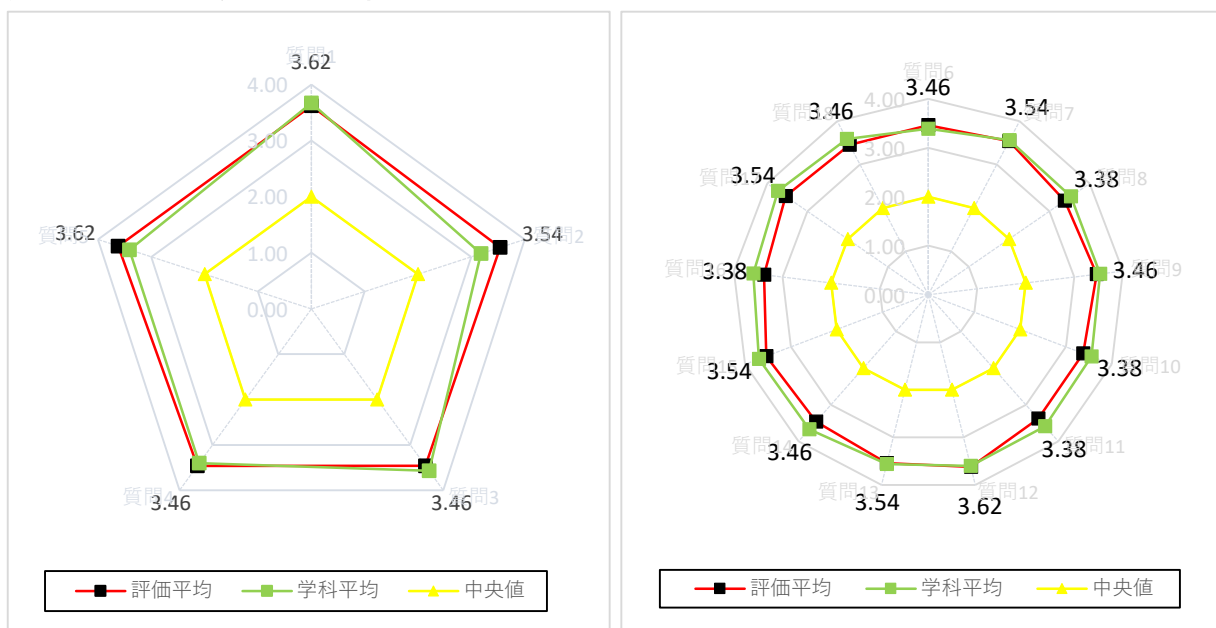
5項目以外は学科平均より僅かに下回る結果となっている。昨年度の評価結果から改善に取り組んだ、「学生の質問等に誠実に対応」と「学生への公平な対応」においては、両方に改善がみられているが、まだ学科平均に届かないことから、さらなる改善が必要である。

### (3) 次年度に向けての取り組み

授業中の学生への問いかけやグループワークの導入を行うなど学生参加型の授業と、ミニツツペーパーの書き込み内容を次の授業で活かすなど実践したが評価に反映されていないため、同項目に対して高い評価が得られている科目との違いを確認して進めていくことにしたい。テキスト導入も一つの検討事項としたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		スポーツ行政学	43名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

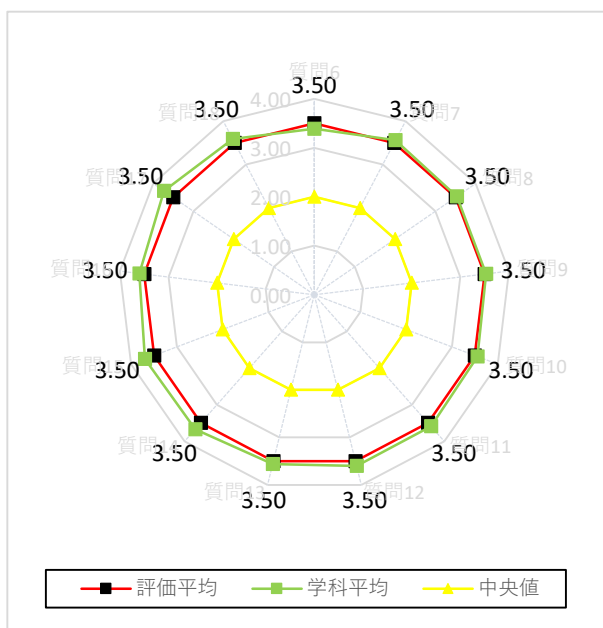
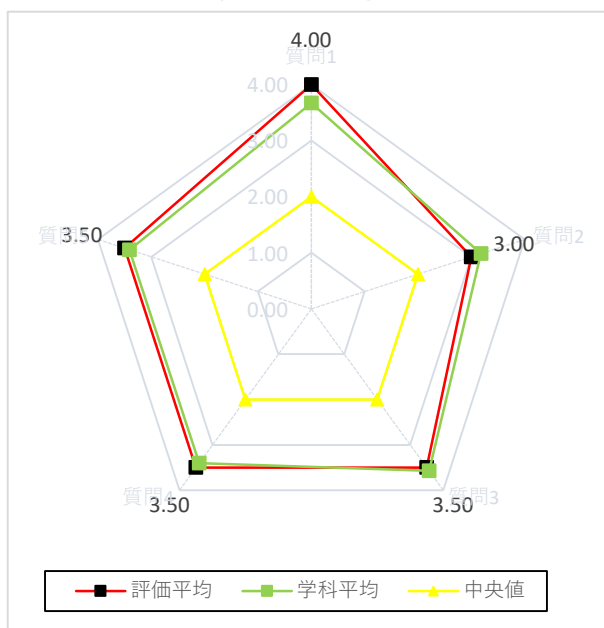
受講生43名中、13名から回答を得た。受講生の3割に満たない評価結果が前提ではあるが、学科平均値よりおおむね高い評価が得られている。学科平均値を僅かに下回った項目としては、「教科書・配布資料等は役に立ちましたか」と「教員は双方向的なやり取りをしながら、授業を行っていましたか」3.38であった。なお、学生自身の授業への取り組み度についても平均を上回る評価であった。

### (3) 次年度に向けての取り組み

テキストに代わるものとして、配布資料が多くなっていることから、学生に煩わしさを感じさせている可能性もある。使用する予定の資料は最初の授業でまとめて配布し、テキストと同等の意識を持ってもらうように工夫してみることにする。グループワークとグループ発表をメインとした学生参加型の授業を継続して実践していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		生涯スポーツ論	22名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

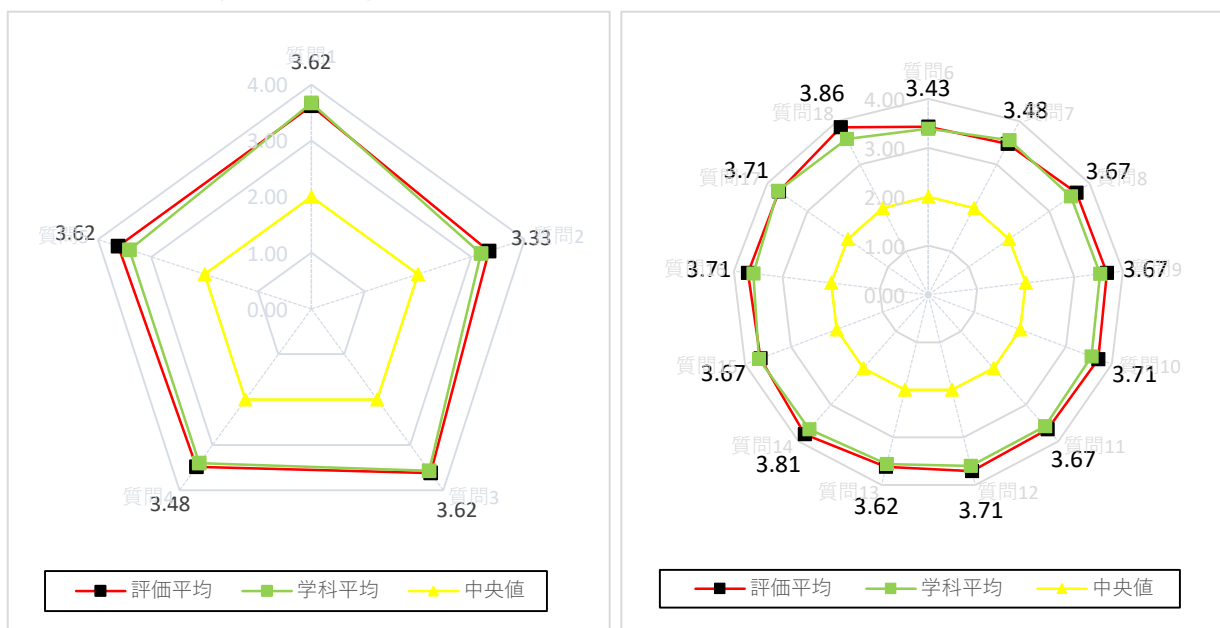
遠隔授業での実施となったが、自主的・主体的に運動、スポーツに取り組めるように、予習・復習のポイントを示しながら実施した。回答者が少なく、積極的に取り組んだ受講者の意見といえるが、ほぼすべての項目で、高い評価を得たと判断できる。シラバスについては、第1回目に共有しながら進めていたが、受講する側が活用するレベルになかったため、活用方法の工夫が必要と感じた。今後は、自己評価も含めてまずアンケート回答数が増えるように、講義時間内での回答や受講者個々への入力促進を進めていきたい。

### (3) 次年度に向けての取り組み

今年度初めての講義だったので、次年度も内容的には同じ方法によって実施する予定である。他の担当講義との関係で次年度は後期開港に変更したので、前期に基礎基本的事を学んでから受講することになり、学習効果に期待している。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		トレーニング論	83名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

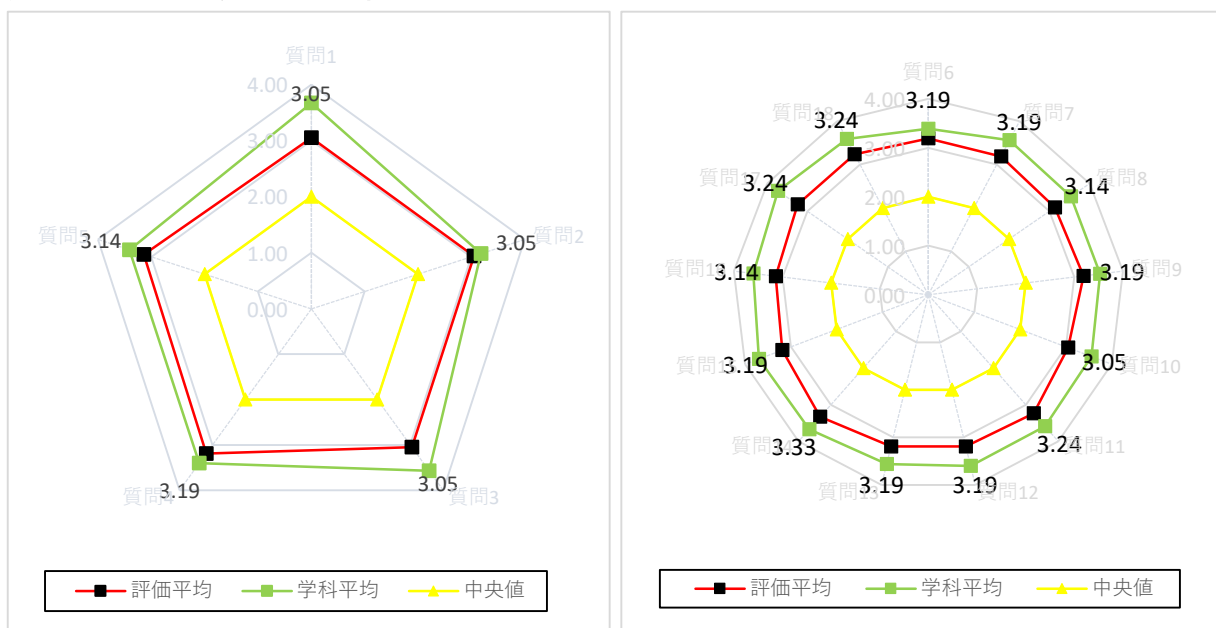
本科目は専門教育科目/学科専門科目/健康スポーツに関する科目/基礎科目(選択科目)として、1,2年次の後期に開講しており、83名の学生が履修した。履修学生83名のうち21名から回答があり、すべての質問項目において概ね学科平均を上回る評価を得た。高い総合評価を維持するための取り組みが重要であると考えられる。

### (3) 次年度に向けての取り組み

基本的には本年度と同様の取り組みを実施する予定であり、さらに学生の意欲を引き出す働きかけを行っていきたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		コンディショニング演習	29名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

本科目は専門教育科目/学科専門科目/健康スポーツに関する科目/基礎科目(選択科目)として、3年次の前期に開講しており、29名の学生が履修した。

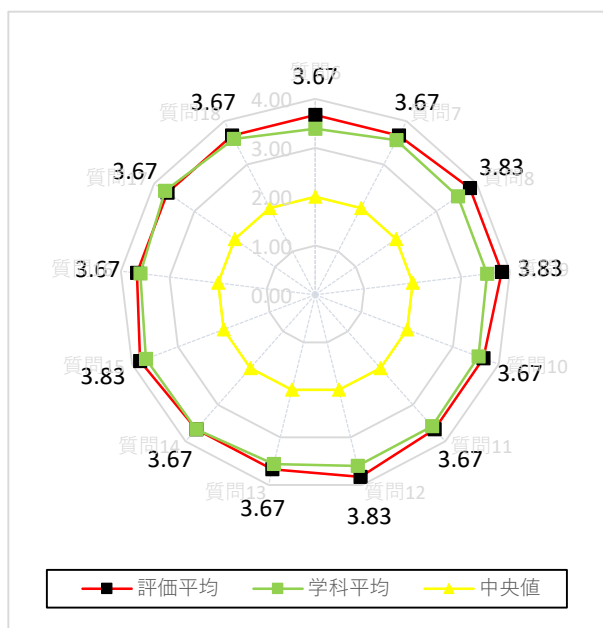
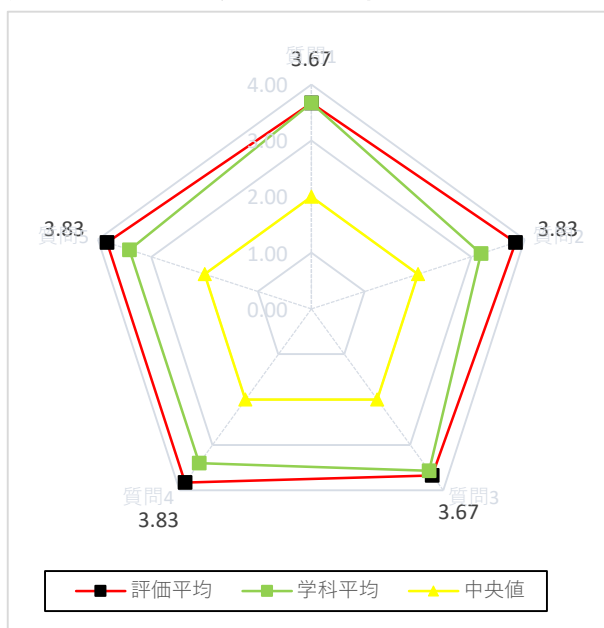
履修学生29名のうち21名から回答があり、すべての質問項目において学科平均をやや下回る評価となった。特に、学生自身に関する項目の質問1「欠席回数」および質問3「授業態度」は他の項目を下回っていたことから、学生の意欲を引き出す声かけが必要であると考えられる。

### (3) 次年度に向けての取り組み

基本的には本年度と同様の取り組みを実施する予定であり、さらに学生の意欲を引き出す働きかけを行っていきたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		学校保健	34名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

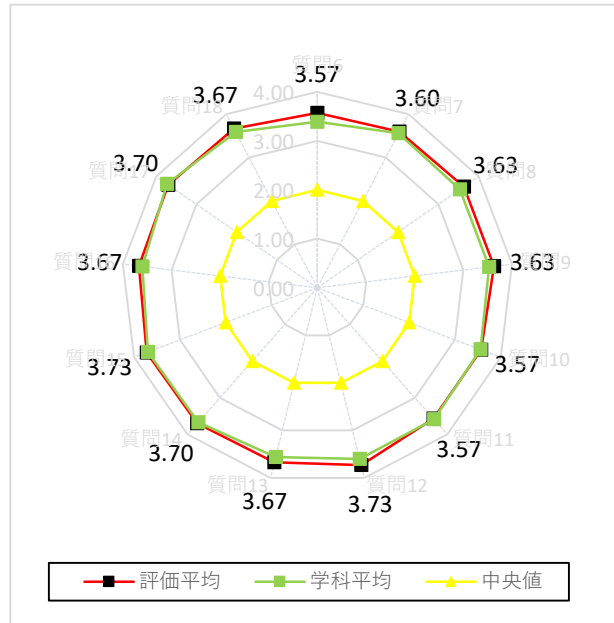
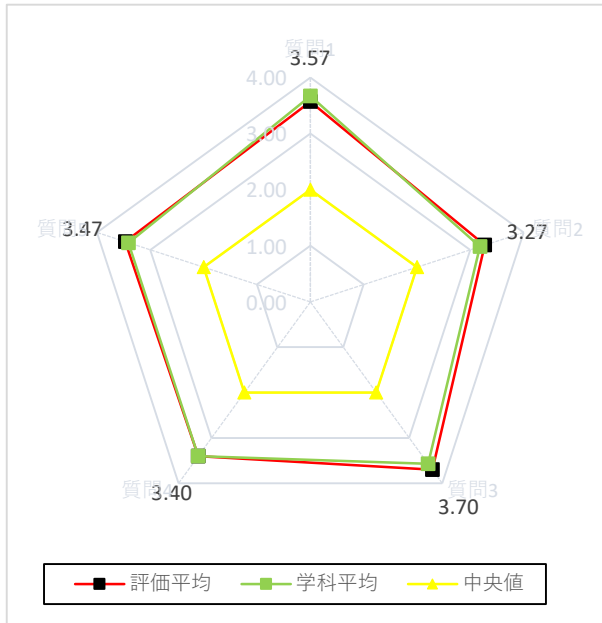
遠隔授業であったが、ほぼすべての項目で学科平均を上回っており、学習効果があったと判断している。ただ回答者数が非常に少なく、積極的に授業参加したものの意見ともいえるので分析のためにはアンケート回答率を上げなければならない。

### (3) 次年度に向けての取り組み

評価で述べたようにアンケート回答率を上げるために、授業時間での実施や個別に回答を依頼するなどの方法を検討し実施していく。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		運動方法学演習2（器械運動）	41名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

ある程度、授業の目的は達成することができた。  
また、危機管理や安全に対する意識は高まったといえる。

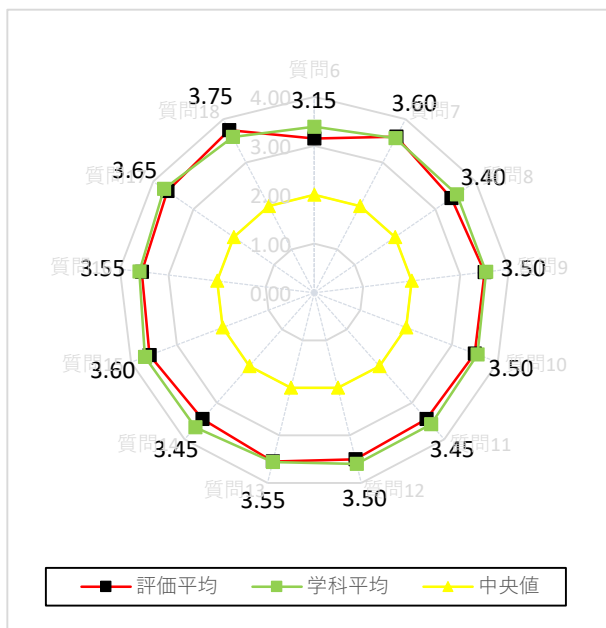
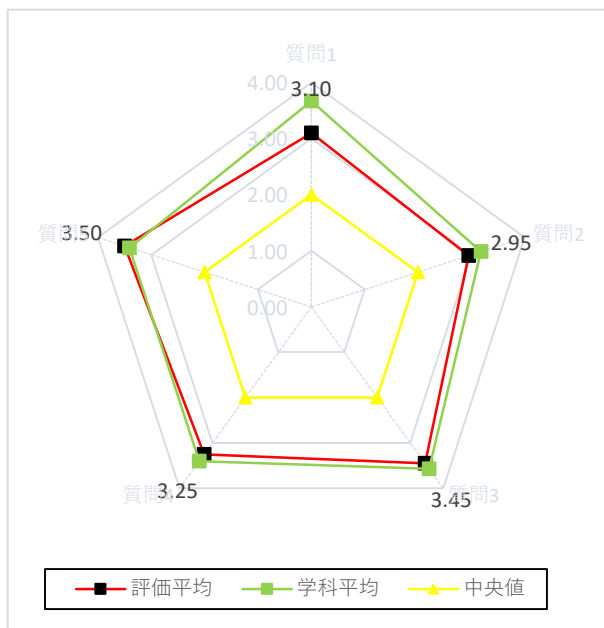
### (3) 次年度に向けての取り組み

安全に十分な配慮をして実施しているが、教師一人に対して、受講学生が50名ほどいるため、さらに最新を注意を払う必要がある。



学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		運動方法学演習5（バスケットボール）	28名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

- ・ 回答率は71.4%であった。高い回答率とは言えないが、受講者の意向をそれなりに示していると考えられる。
- ・ 質問1、および2については、学科平均を下回っていた。質問1についてはコロナ下での対面授業のため、体調不良等については欠席扱いについて配慮をしていたため、欠席回数自体は全体的に多くなっていた結果と判断できる。質問2については第1回の講義時に全体の到達目標と評価、授業計画も含めシラバスに沿って授業概要を説明していたので、毎回の講義について到達目標確認等を実施していなかったことが、シラバス全体の把握や活用につながっていなかったと考えられる。
- ・ 達成目標については、各自のスキルレベルにおいて到達度を設定し、また、講義の積み重ねによって到達レベルの確認ができるように実施していたので、総合自己評価が平均より高くなっていたと推測できる。
- ・ 授業全般を通してうまく進められていたが、感染予防のために3密を避け個人スキル習得が中心となり、チーム対戦を通じた学習を少なからず我慢させることがあり、今後同様な状況を想定した授業方法について検討しなければならないと感じた。

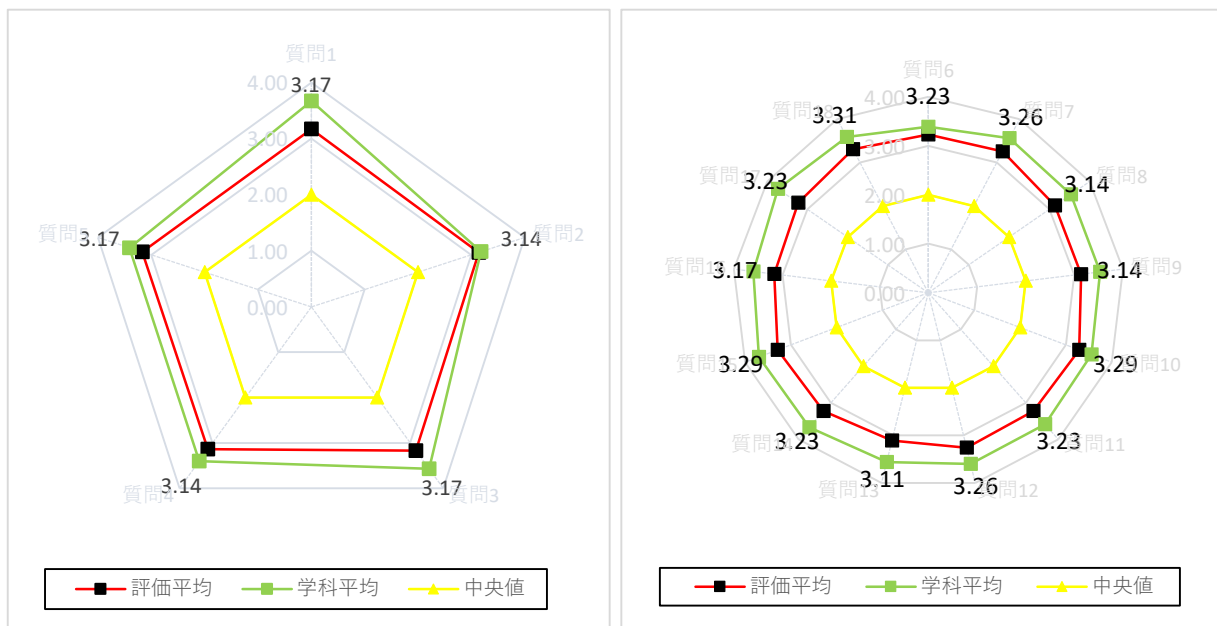
### (3) 次年度に向けての取り組み

おおむね学生による授業評価は高かったと判断できるので、以下の改善点を含めて同様の講義を継続して進める。

- ・ シラバスの授業計画に沿った毎時の講義目標、達成度を確認しながら受講できるように、Teams等を活用して理論中心になるが実技に必要な予習と振り返りを各自の授業記録として残せるようにする。
- ・ 3密を避けた実践例を参考にしながら、感染予防下での集団スポーツの指導方法について工夫しながら実施する。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		運動処方	56名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

R3年度前期における学生のアンケート回答率は63% (35/56) であった。

すべての質問において学科平均程度の結果であった。

講義方法として、ZoomとTeams を併用したオンデマンド型の遠隔授業を行った。具体的には、

- ①初回に前期・後期分のオリジナル教材(学習ノート)を一括配布して授業方法を説明、
- ②毎回の授業時は、講師が授業の音声動画を事前録画(Zoom)して学生へ配信(Teams)、
- ③学生は各自で動画を見ながら学習ノートに記載、
- ④出欠管理として課題提出(練習問題)を行い、自由記載にて質問・感想を収集、
- ⑤次回の講義で練習問題の解説と質疑応答を全体にフィードバックした。
- ⑥最終回は定期試験(対面)の後、全体の解説・質疑応答を行った。
- ⑦録画は一定期間閲覧可能として復習に活用してもらった。

なお一部演習を行う予定だったが感染拡大状況を鑑みて中止した。

自由記載より

「オンラインの授業だったので、わからないところとか聞きやすかった。」

「リアルタイムでの授業ではなかったので、聞きそびれや、間に合わないなどがなかったので、受けやすかった」

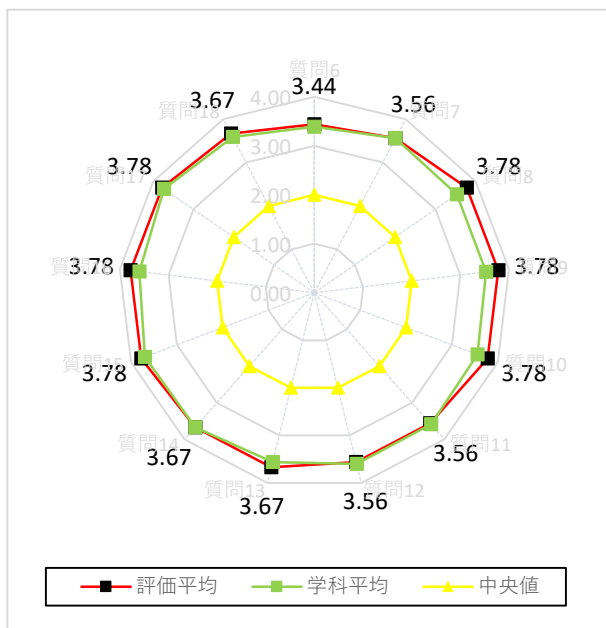
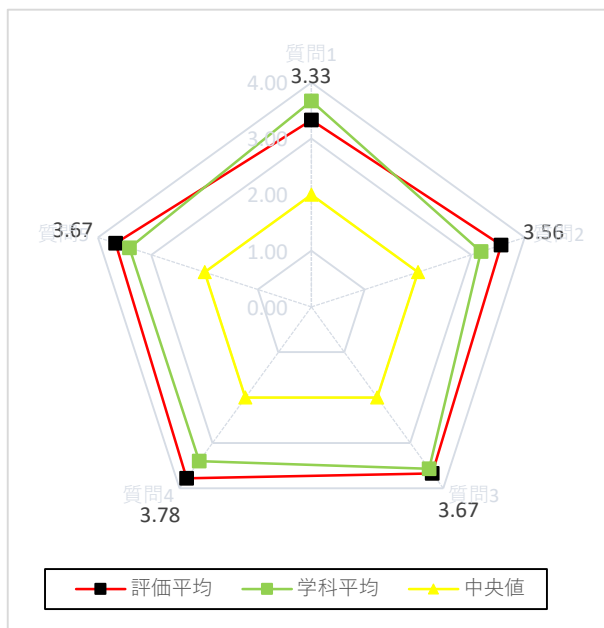
### (3) 次年度に向けての取り組み

学生の受講態度や理解度にはムラがあると考えられるため、

来年度はより丁寧な説明やフィードバック方法を工夫して取り組みたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		運動負荷試験	16名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

学生のアンケート回答率は56% (9/16) )であった。すべての質問において学科平均または平均を上回る結果であった。

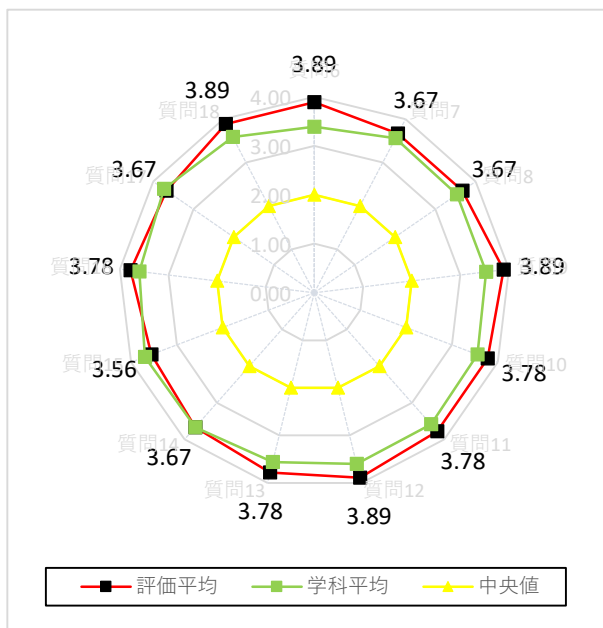
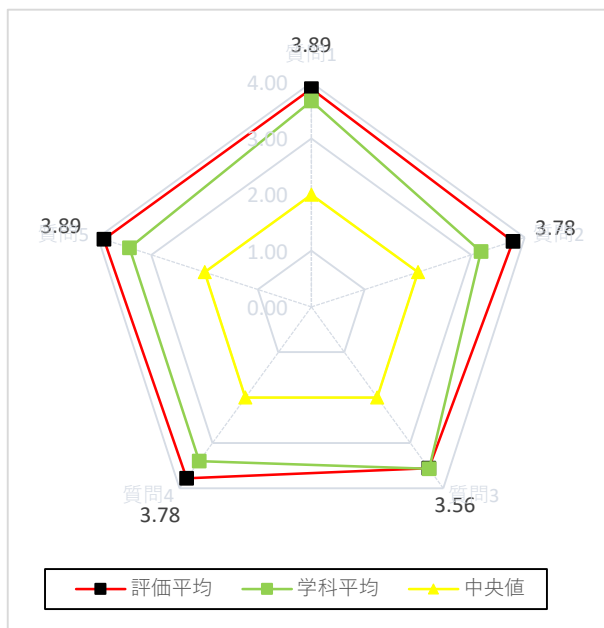
運動負荷試験では、講義は遠隔で行い、3種類の運動負荷試験は対面で実施した。運動負荷試験実習を通じて、学生相互で役割を交代しながら、様々な測定を体験してもらうことができた。運動処方についての理解も深まると同時に、より実践的な学習ができたと思われる。履修者全体で助け合いながら授業に参加する雰囲気が高まっていた。

### (3) 次年度に向けての取り組み

学習ノートをさらに改良し、より分かりやすい実習を心がけていきたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		測定評価	39名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

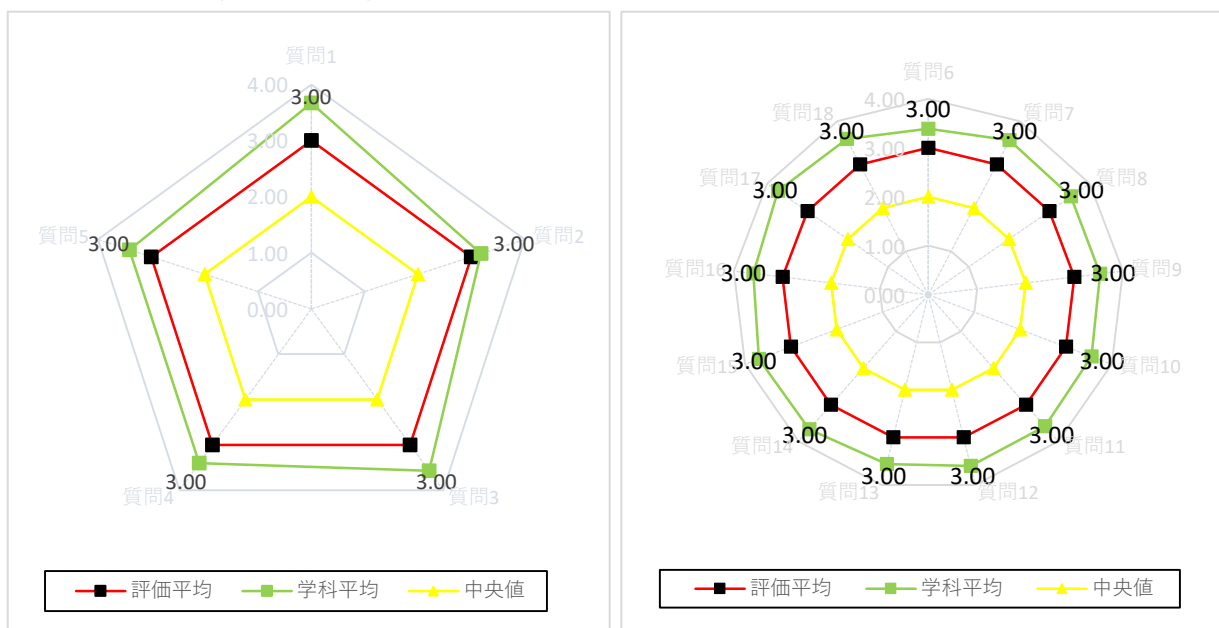
履修者39名のうち9名からの回答であった。全体的には、4または3の回答でほぼ良好な状況と考えられる。その中で質問3の「授業中の私語、居眠り」、質問7の「授業到達目標の明確、展開」、質問14の「質問への対応」について2の評価があったことは注視したい。質問5および質問18の総合的評価では、9名中8名が4評価であった。

### (3) 次年度に向けての取り組み

概ね良好な評価を得たものの、一部の質問で改善が必要と思われる内容もあり、今後少しでも授業内容が分かりやすく学生への質問にも真摯な態度で対応できるよう努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		健康産業施設等現場実習	5名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

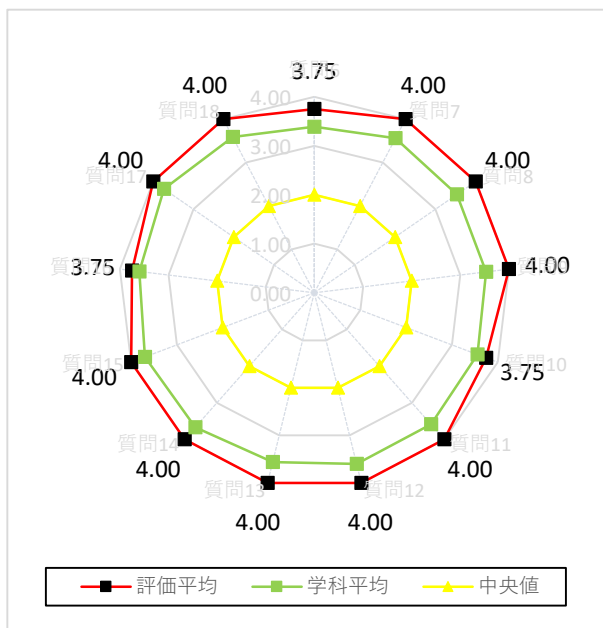
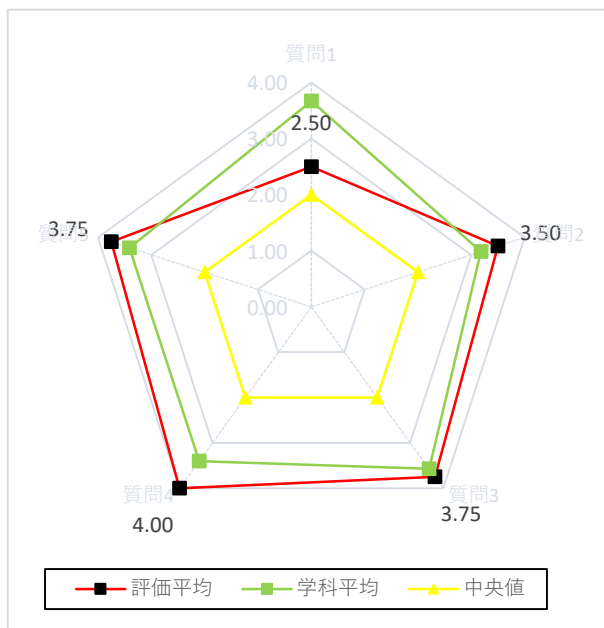
この授業へのアンケート回答がないため、分析と評価については省略する。

### (3) 次年度に向けての取り組み

現場実習でそれぞれの施設対応となるため、個々の学生からの意見等に対応できるよう努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		健康運動総合演習 I	4名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

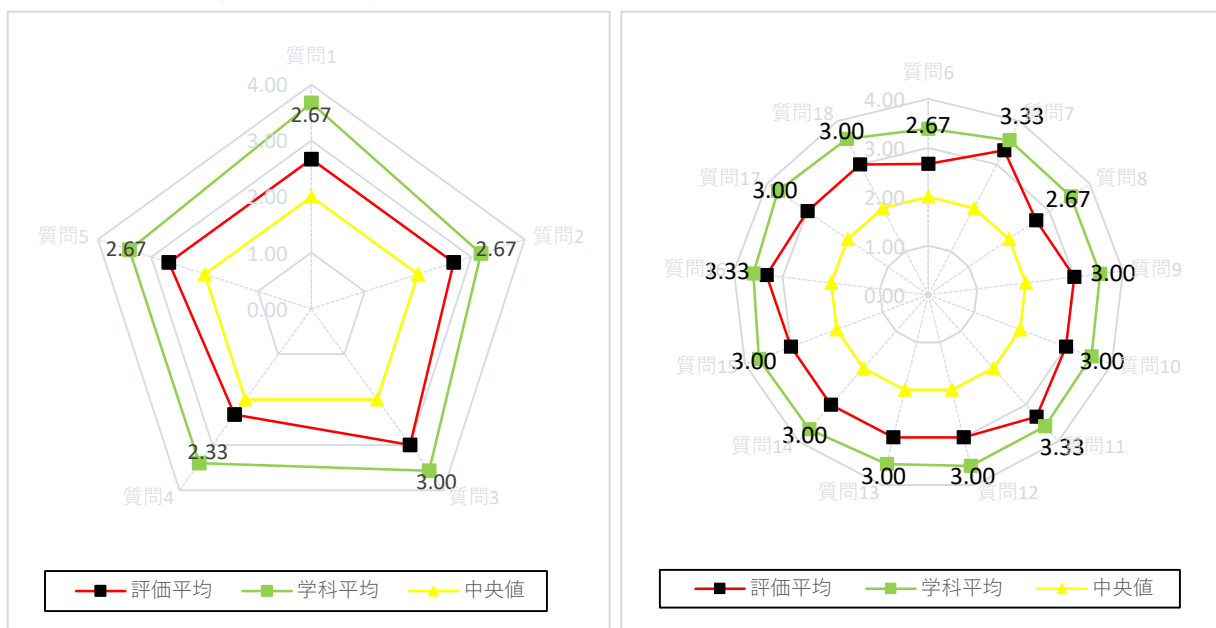
この授業は、「健康運動実践指導者」資格取得を目標とした受験対策講座である。15回の前半を実技試験の対策授業で、後半は筆記試験の対策となる。そのため履修者も真面目に取り組む姿勢が見られた。今年度は履修者数が少ないものの、全員のアンケート回答が得られた。結果としては、質問の6割に4の良好の評価で、質問18の授業の総合評価も全員4であった。唯一2.5と低かったのが質問1の授業出席で、数回の欠席があった学生が少し多かったようである。

### (3) 次年度に向けての取り組み

授業後半の筆記試験の対策が、例年苦勞している。試験問題が公開されていないために、出版された問題集を教材として活用しているものの、十分な解説をする時間がない。そのため、学生の自己学習が主となっている。この点は今後改善する必要があると感じている。実技指導は履修者が少なかったこともあり、個別指導の時間も多く取れたことで、学生も積極的に取り組んでくれたようである。今後も今回同様またはそれ以上の評価が得られるよう、取り組みたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		健康運動総合演習Ⅱ	5名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

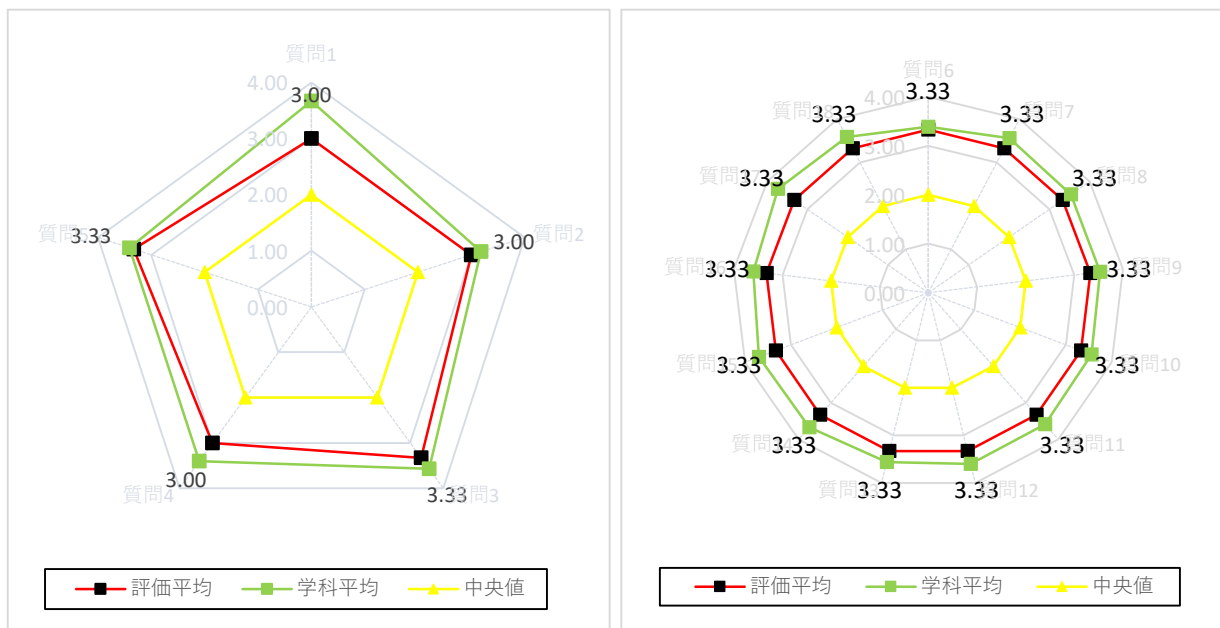
履修者5名のうちの3名からの回答である。今回オンラインによる授業で、その準備や対応に手間取った。反省点も多い。それが今回のアンケート回答にも反映されているようである。

### (3) 次年度に向けての取り組み

この授業は受験対策の内容で、各自の自己学習が重要となる。少しでも資格取得への受験に合格できるよう支援したいし、授業改善にも取り組みたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		地域スポーツ実践演習 I	8名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

8名中3名から回答を得られた。  
 例年、高い評価を得られている科目であるが、今回は特に学生自身の取り組みに対する評価の値が低調であった。要因としては、活動に参加せず単位を取得できなかった学生の回答が影響しているものと考えられる。

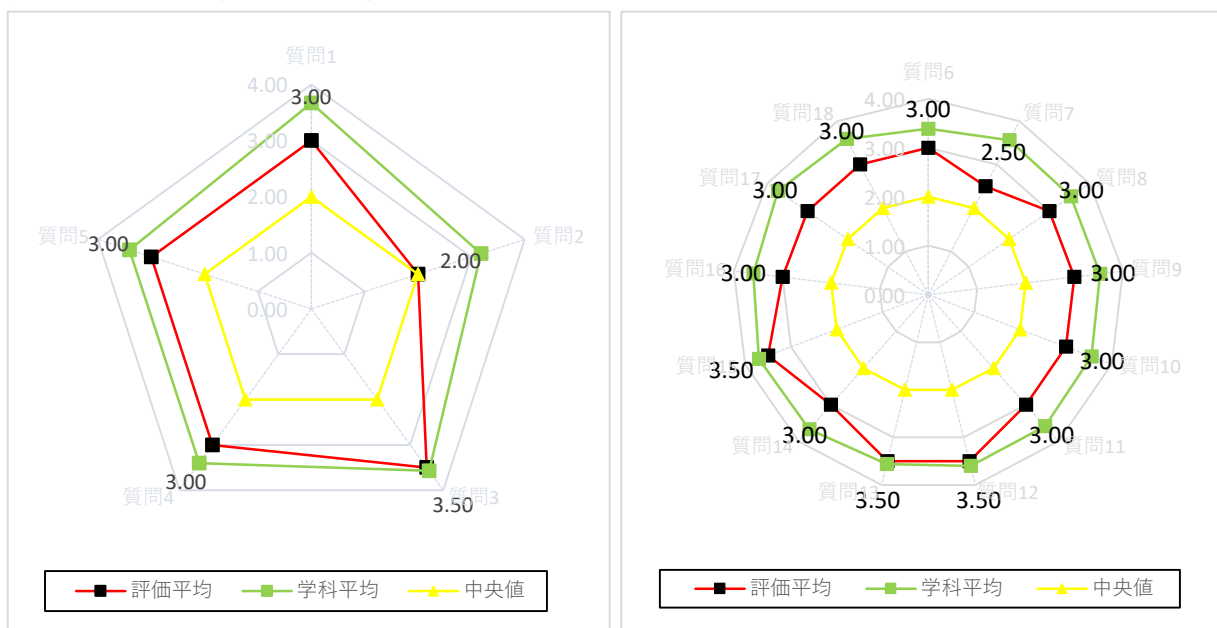
### (3) 次年度に向けての取り組み

学科全体で計画し実際の活動はゼミ別であることから、リハーサルと当日の参加について、学生同士が気にかけて、前日及び当日の声かけを行うようにこちらから促すようにする。また、学生が活動を「楽しむ」だけではなく、運動・スポーツの指導・支援に必要となる事前準備の重要性と、実践後の達成感を体感できるよう工夫していく。



学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		地域スポーツ実践演習 I	6名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

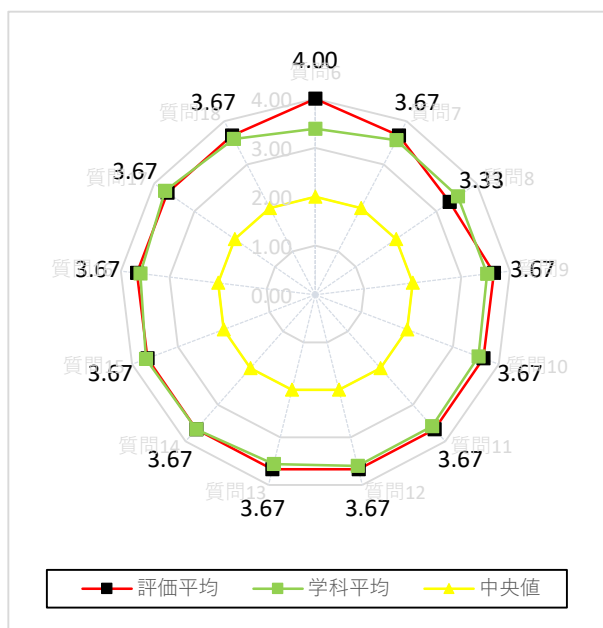
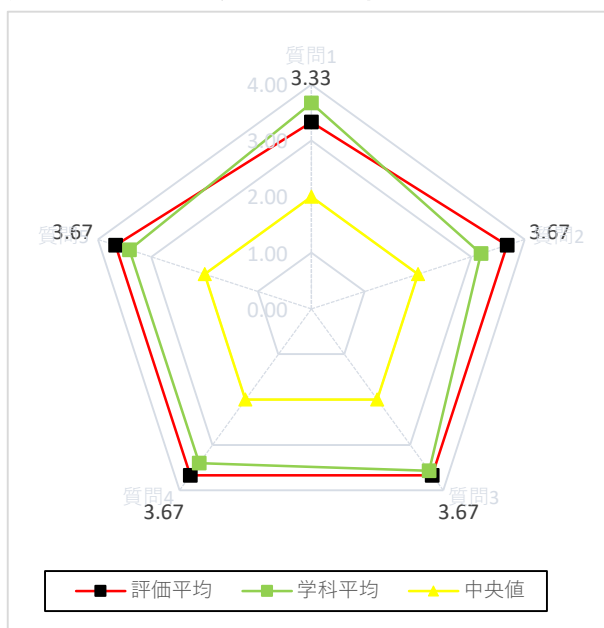
本科目は専門教育科目/学科専門科目/健康スポーツに関する科目/生涯スポーツ支援関連科目(選択科目)として、2年次に通年で開講している。私が担当するゼミ生6名が履修した。履修学生6名のうち2名から回答があり、多くの質問項目において学科平均を下回る結果となった。教員に関する項目の質問2「シラバスの活用」が特に低かったことから、見通しを持った学修の実践につながる声かけが必要であると考えられる。

### (3) 次年度に向けての取り組み

基本的には本年度と同様の取り組みを実施する予定であり、見通しを持たせる働きかけを行っていきたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		地域スポーツ実践演習 I	8名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

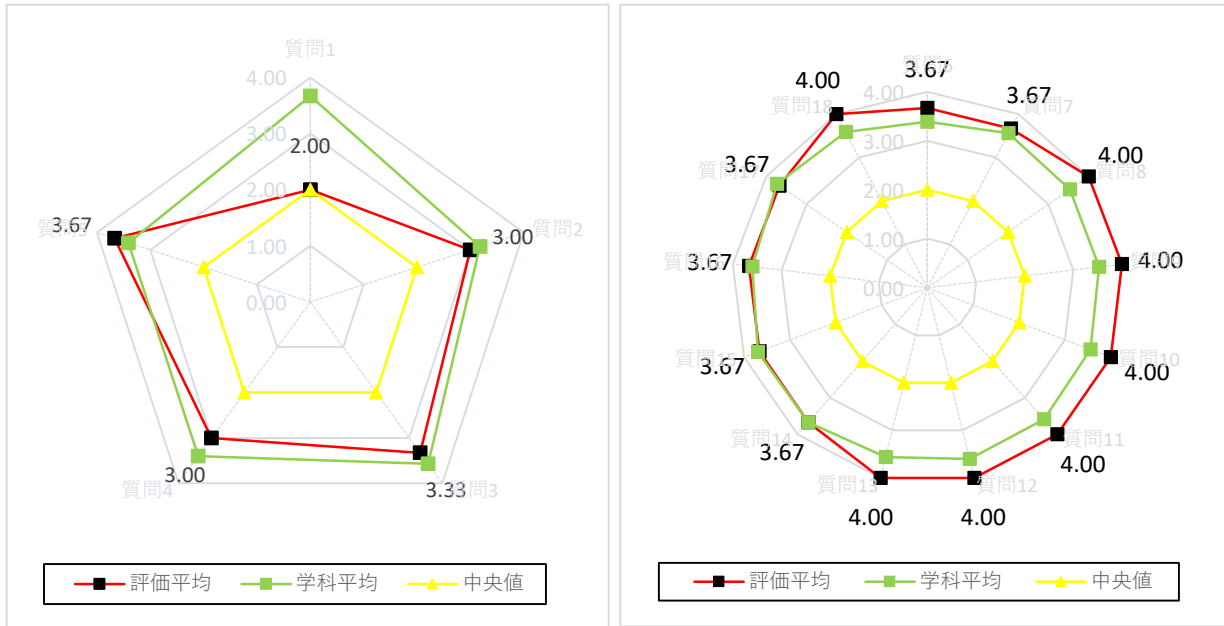
3年生とともに学外で活動する授業内容で積極的な取り組みもなかなか難しい面もある中で、全体的には良好な評価が得られたことで一安心している。しかし一部の質問では厳しい評価もあり、今後の改善に向けて努力したい。

### (3) 次年度に向けての取り組み

全体的には良好な結果であったが一部の反省が必要な点もあり、学科内で評価の共有をして今後の改善に向けて努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		地域スポーツ実践演習Ⅱ	8名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

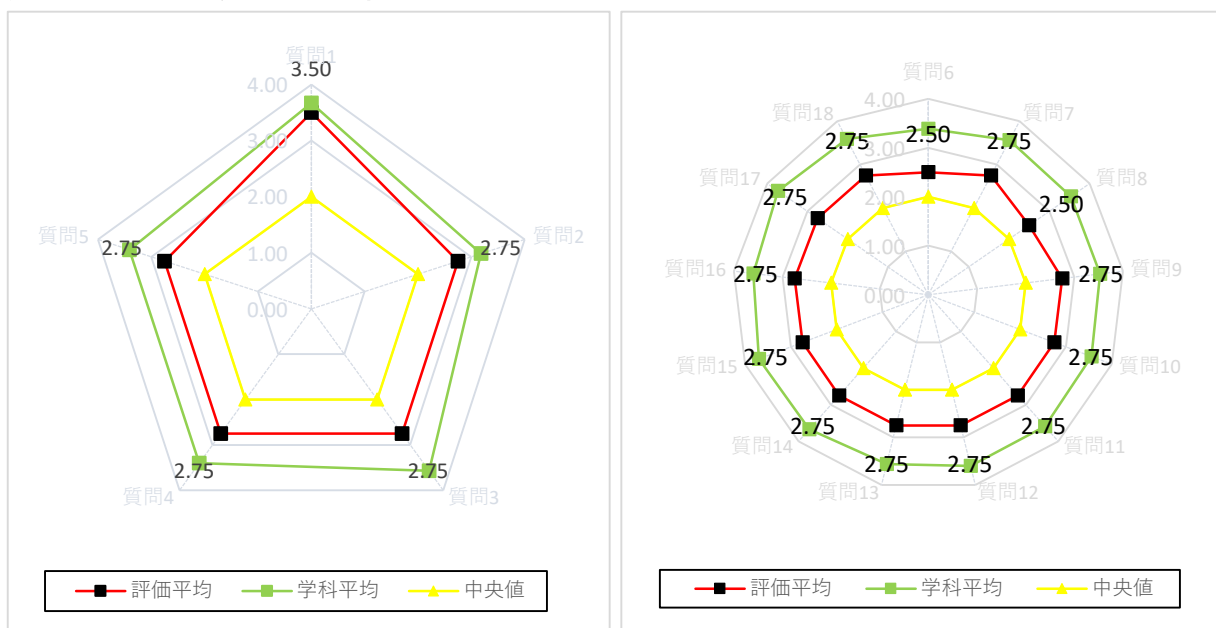
ゼミ生8名のうち3名からの回答である。学生自身の評価で一部に評価が低いものがあるが、全体の授業内容としての評価は概ね良好な結果と考える。

### (3) 次年度に向けての取り組み

2年生と合同で行う実践的授業であるため、いろいろな場面における気づきを学生へ伝えられる授業内容を今後も進めたいと考えている。学生が主体となって取り組めるよう授業改善に努めたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		地域スポーツ実践演習Ⅱ	8名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

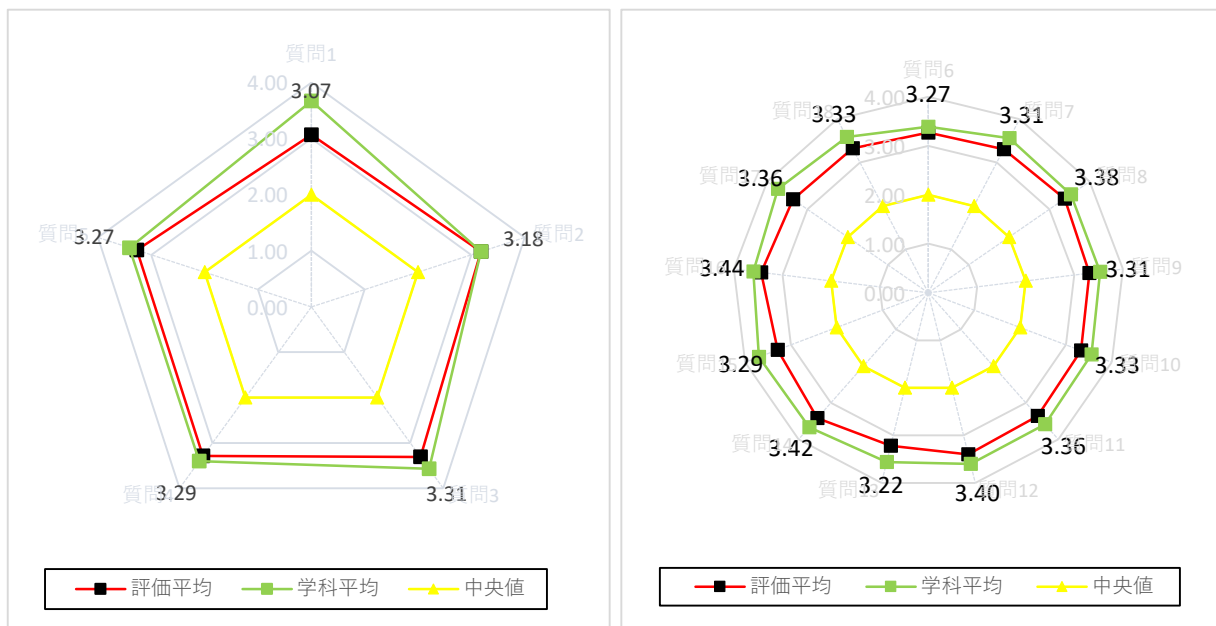
本科目は専門教育科目/学科専門科目/健康スポーツに関する科目/生涯スポーツ支援関連科目(選択科目)として、3年次に通年で開講している。私が担当するゼミ生8名が履修した。履修学生8名のうち4名から回答があり、ほぼすべての質問項目において学科平均を下回る結果となった。4名の回答ではあるものの、学生の意欲・態度に関する項目の質問1「欠席回数」は学科平均をわずかに上回ったことから、出席に対する意欲は高い状態で臨んでいたことが伺える。

### (3) 次年度に向けての取り組み

基本的には本年度と同様の取り組みを実施する予定であり、さらに学生の意欲を引き出す働きかけを行っていきたいと考える。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		キャリアデザイン基礎演習	97名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

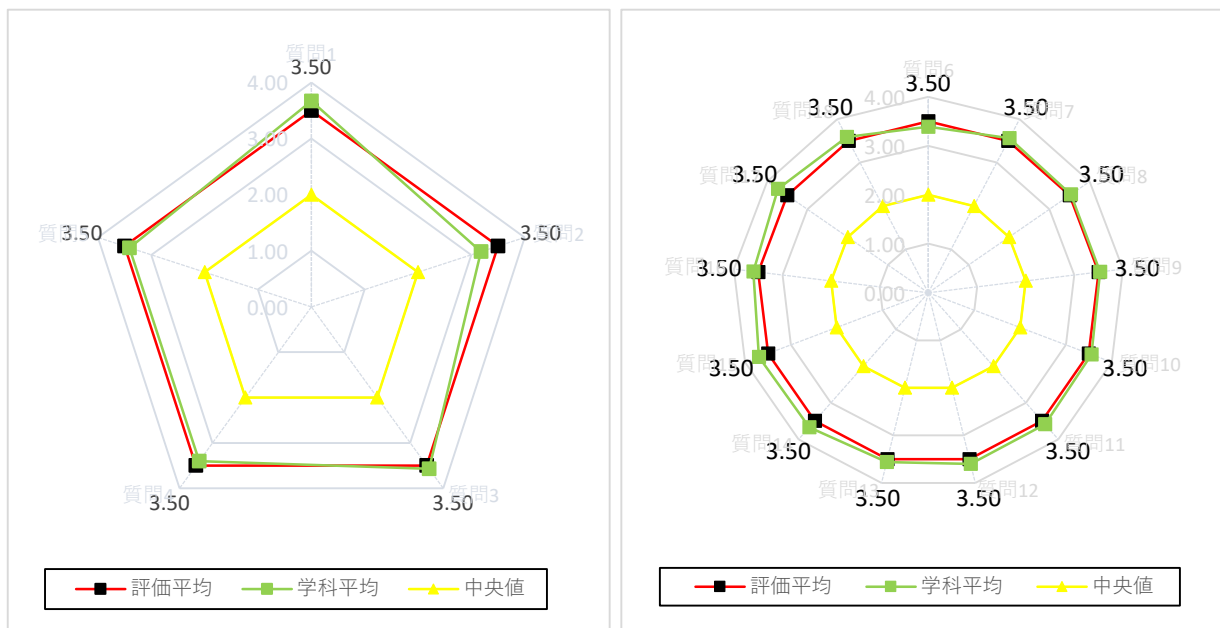
就職関連企業の協力を得ながら進めており、少しずつ就職に関する意識が高揚したと感じた。

### (3) 次年度に向けての取り組み

学生のニーズに細かく対応できる体制を構築したいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		キャリアデザイン実践演習	6名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

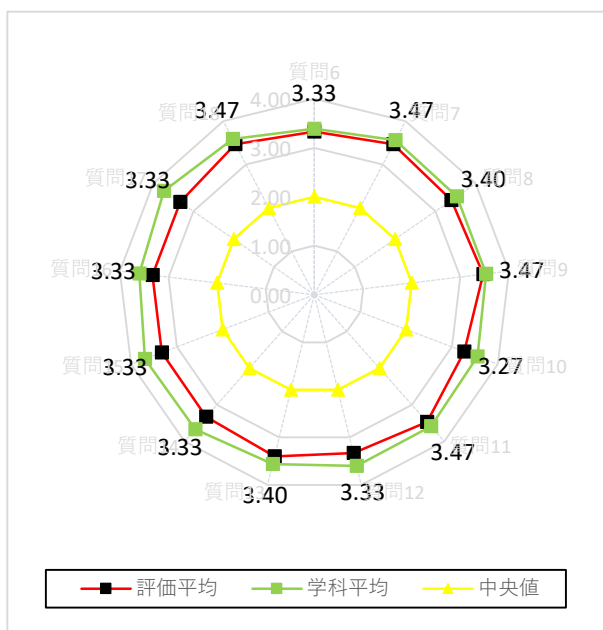
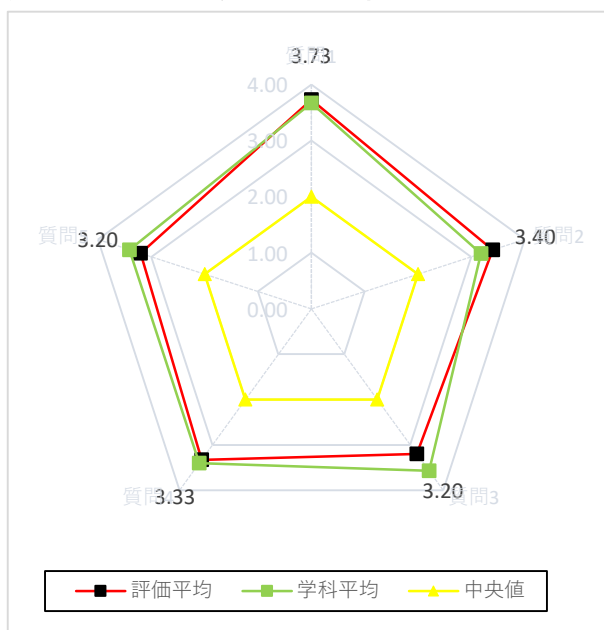
この授業は、将来のキャリアに関連する企業や団体等で実社会で求められる様々な能力や態度を体験的に把握し、正しい労働観や職業観を学ぶことを目的とした就業体験（インターンシップ）の学外実習である。そのため、アンケートの質問がこの授業評価をするには難しい内容であるが、今回6名の履修者から2名の回答があった。いずれの質問に対して3および4の評価であったことから、ある程度良好と考えられる。自由記述の回答はなかった。

### (3) 次年度に向けての取り組み

この授業の指導担当者は、各ゼミ担当教員である。学科内では「キャリアデザイン基礎演習」を履修し、インターンシップへの準備をした上で実際の就業体験を行うよう指導しているが、担当教員からも学生への積極的な事前指導や事後指導ができるよう今後も取り組みたい。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		保健体育科教育法Ⅲ	23名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

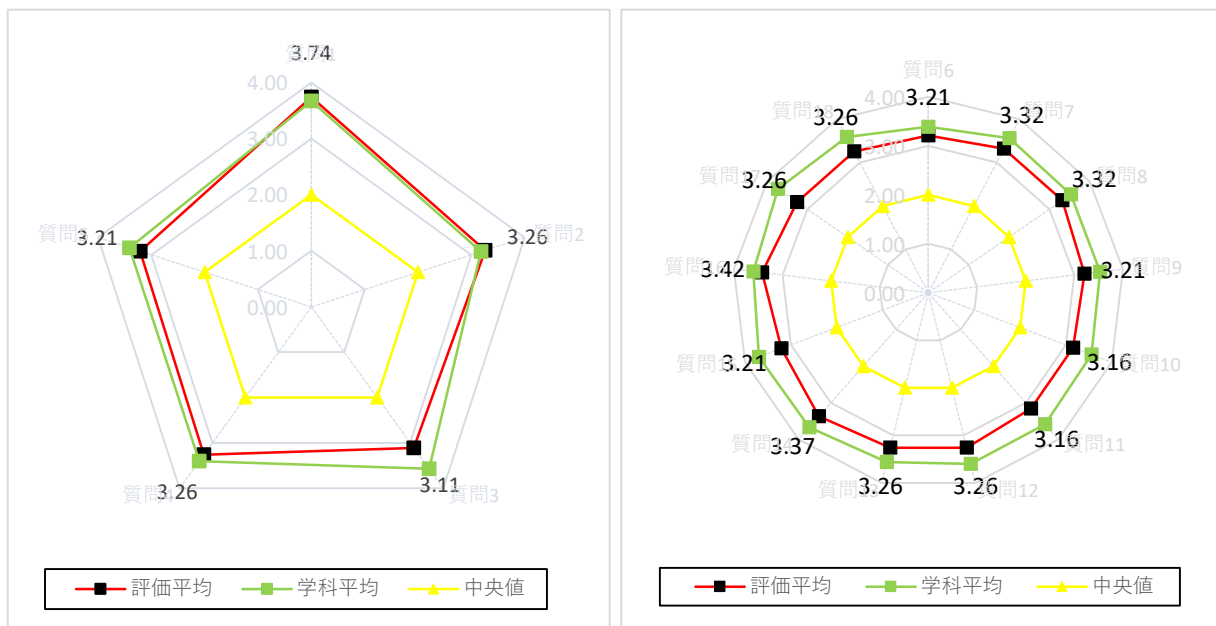
保健体育科の教師となるために必要な知識や言動について、徹底して支援することができたと思っている

### (3) 次年度に向けての取り組み

教育実習の現場での評価も得ているが、さらに高まりを目指したいと考えている。

学部	学科	担当者	科目名	履修者数
健康福祉学部	スポーツ健康福祉		保健体育科教育法Ⅳ	32名

### (1) 学生による授業評価結果



### (2) 結果の分析と評価

- ・ 回答率は59.4%であった。回答率はあまり高くなかったため、受講者全体の意向ととらえるのはやや難しいが、傾向を示していると考えられる。講義はすべて遠隔リアルタイムでの実施であった。この学年は、個人用のPCを持たず、携帯で授業接続をしているケースが半数以上であった。感染予防対策で情報演習室の利用も制限され、PCの貸し出しもうまく利用できず遠隔授業を受けるのに十分な接続環境が確保できない状況で授業が実施された。
- ・ 質問3以外、質問5までは平均以上か、ほぼ平均値となっていた。質問3の授業への取組状況があまり良くなかったのは、原則顔を出して参加するように指示しても、リアルタイムで授業をした場合、参加状況確認は難しく学生の主体性に任せざるを得なかった。
- ・ 質問6以降については、多少平均を下回るものもあったが、ほぼ平均値を示していた。授業者の問題も多少あるかもしれないが、ハード面については遠隔授業の限界を感じる。
- ・ 遠隔授業の接続環境の改善以外は授業全般を通してうまく進められていたが、PP資料の改善やグループワークを含めた授業方法について検討しなければならないと感じた。

### (3) 次年度に向けての取り組み

おおむね学生による授業評価は平均的と判断できるので、以下の改善点を含めて同様の講義を継続して進める。

- ・ 引き続き遠隔授業の場合、Teamsを活用してできるだけグループワークや探求学習を導入し、学生が主体的に学べるように授業形態等を工夫する。
- ・ 授業開始前に、接続環境について事前に確認しできるだけPCでの授業参加を促す。